

中国の美術大学におけるキャリアサポートのあり方  
-日本の経験からの応用-

Career Support at Chinese Art Universities  
- Application of Practices in Japan -

唐 貝殻 Tang Beike

(論文指導：静岡文化芸術大学教授 片山 泰輔)

目 次

要 旨	1
序 章	3
第1章 日本と中国における美術大学の現状	4
第2章 先行研究・課題の整理	10
第3章 研究方法	15
第4章 日本での調査におけるキャリア教育・就職支援の現況	17
第5章 中国の八大美術学院におけるキャリア教育・就職支援	22
第6章 中国の大学へのメール調査とあり方提言	26
図 表	33
参考文献	47

## 要旨

本論文は、日本と中国の美術系大学におけるキャリア教育と就職支援の比較分析を通して、どのような取り組みが中国の美術学院（＝美術大学）に応用可能かを検討することより、中国の美術学院のキャリア教育・就職支援の改善の方向性を明らかにすることを目的としている。

まず、文献調査によって中国の大学と美術系大学におけるキャリア教育・就職支援の実施現状と課題を把握した。日本については、美術系大学のキャリア教育・就職支援に関する先行研究がほとんどみられないことから、次に、日本のすべて美術・芸術系大学と総合大学美術学部（学科）におけるキャリア教育と就職支援に対するインターネット調査によりその現状を把握した。さらに、その中の6つの大学に対して、メール調査等により、詳細な事例調査を行い、日本の美術大学における特徴を把握した。日本ではキャリア教育に関する正規科目が開設された美術系大学は少ないが、外部から多様な講師陣と協力してセミナーや講演会などの取り組みが盛んに行われるようになってきていることが明らかになった。これに対し、中国の大学ではほぼキャリアセンターが設置され、正規科目を開講している。内容的には卒業生の進路割合としては「就職」が多いにも関わらず、「起業」偏重の傾向が顕著である。また、支援体制の整備におけるキャリア教育と就職支援の担い手については、主たる担い手は専任教職員のみであり、学外との連携体制が薄い。

日本側の調査結果に基づいて、中国のキャリア教育・就職支援の課題に対して応用可能と考えられる取り組みを選び出し、その実現可能性を検証するために中国側へのメール調査を実施した。そのメール調査結果、中国の美術学院におけるキャリア教育・就職支援のあり方に対して応用可能な日本の取り組みとしては、①キャリア教育・就職支援の取り組みを、全体計画に基づいて行い、各学年のキャリア教育目標と具体的な支援計画を明確化すること。②就職支援に関するテーマ講座の企画の中で、日本の大学では定番講座となっている「業界研究」を行うこと。③各大学の卒業生（OBOG）の情報管理とその活用、が効果的であるという結論を得た。これら3点は、現時点の中国の美術学院で素早く実施できる取り組みであり、中国のキャリア教育・就職支援におけるいろいろな課題の解決に貢献することを期待する。

キーワード：キャリア教育、就職支援、美術系大学

## Abstract

This paper considers the characteristics of career education and employment support at Japanese art universities, and examines what kind of efforts can be applied to Chinese art universities. The purpose is to present the construction for education and employment support.

In this paper, the first discussed the current status and issues of career education and employment support at Chinese universities and art universities through a literature survey. Next, I grasped the current situation from an internet survey on career education and employment support at all art and art universities in Japan and the Faculty of Fine Arts of the University of Arts and Sciences. Furthermore, we combined a case survey of 6 universities among the universities surveyed on the Internet and an email survey of 4 universities surveyed. According to the results of a survey on career education and employment support at universities in Japan and China, there are few art universities in Japan that have regular courses related to career education, but efforts such as seminars and lectures in cooperation with various instructors from outside is becoming popular. Most universities in China have career centers and offer regular courses. In terms of content, although the percentage of career paths for graduates is mostly "employment," the tendency toward "entrepreneurship" is remarkable. In addition, regarding the leaders of career education and employment support in the development of the support system, the main leaders are full-time faculty and staff, and the system of cooperation with off-campus is weak. That is why Japan's career education and employment support is worth referring to China.

Based on the survey results of the Japanese side, I selected applicable efforts for the issues of career education and employment support in China, and conducted an email survey to the Chinese side. Based on the results of the email survey, the ideal way of career education and employment support at the Chinese Academy of Fine Arts: (1) Career education and employment support efforts will be carried out based on the overall plan, and career education goals and specific support for each grade. Clarify the plan. (2) Conduct "industry research," which is a standard course at Japanese universities, in the planning of theme courses related to employment support. (3) I tried to propose information management and utilization of graduates (OBOG) of each university.

Keywords : Career education, Employment support, Arts of the University

## 序章

### 研究背景と研究目的

#### (1) 研究背景

近年、世界的な就職環境と就職市場の変化により、大学生の進路選択は自分の学部・学科に制約されず、他領域へ就職することも珍しくなくなった。このような環境下で、大学生に対するキャリア教育の重要性が高まっている。

中国では、多くの美術系大学生がキャリア教育の不十分さを感じ、進路について悩んだり迷ったりしている。筆者自身も、中国の総合大学デザイン学部を卒業した際、そのような経験をしてきている。一般に、ほとんどの中国の美術学院（美術大学に相当）は芸術実技を高めることを目標としており、時代遅れの教育理念により美術系学生の生き方は厳しく狭くなっている上に（徐進 2014、p.156）、美術・芸術系の学生自身も社会環境の変化に対して敏感ではないと一般的に認識されている。「就職青書 2019 年度中国大学生の就職報告」によると、絵画学科は 3 年連続で就活しにくい学科に選ばれた。就職率が低い、給与・仕事満足度が低い、離職率が高いという三つの要素が原因である（就職青書、p.22）。そのため、中国の美大生はこのような甘くない就職環境の下で、新しい進路観・職業観づくりしなければならない。

2007 年 4 月 22 日の中国国務院の通知「2007 年高等教育機関の卒業生就職について」第 7 項の「大学生の就職活動と社会のニーズをめぐる教育改革」において、「(前略)進路担当教員を整備しながら、就職指導は大学教育内容に組み込む。(後略)」と指摘されたことをきっかけとして、中国の高等教育機関にキャリア教育が登場した。キャリア教育課程の編成は、中国教育部『大学生職業発展と就職指導課程に関する要求』により構築された。しかし、中国の大学における現行のキャリア教育に対する学生の評価結果から見ると、授業効果は十分にあらわれていない。

一方、日本の大学におけるキャリア教育や就職指導の展開は中国よりも早くから行われており支援プログラムも充実していると中国では認識されている。

#### (2) 研究目的

本研究の目的は、日本と中国の大学キャリア教育の歴史経緯、美術・芸術大学と美術学部を設置した総合大学のキャリア教育や就職支援の比較を通して、中国の美術大学キャリア教育・就職支援の改善の方向性について明らかにすることである。

まず、文献研究を通して、日本と中国の大学生の就職活動、キャリア教育の歴史経緯を整理して、日本と中国の現状の異同を明らかにする。次に、インターネットで公開された情報をもとに、中国の 8 つの美術学院（以下八大美術学院）及び日本国内の美術単科大

学や国公立芸術大学、ファインアート学科を持つ総合大学におけるキャリア教育の仕組みと特徴などを整理し比較する。その上で、日本のいくつかの大学におけるキャリア教育実態についての詳細な事例調査を行い、中国の美術大学に応用できそうな取り組みについて検討を行う。その結果を中国の大学に対して示し、中国での実現可能性についての検討を行い、中国の美術大学キャリア教育・就職支援の改善の方向性についての結論を導く。

## 第1章 日本と中国における美術大学の現状

### 第1節 美術大学の概要

#### 第1項 日本の美術・芸術大学の概要

美術分野の単科大学は日本に5校があり、多摩美術大学、武蔵野美術大学、女子美術大学、横浜美術大学、秋田公立美術大学である。5校の美術大学に加えて、東京藝術大学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学、愛知県立芸術大学、沖縄県立芸術大学という、音楽や工芸等の教育も行なう国公立芸術大学も5校ある。

その他、大阪芸術大学や文星芸術大学などの私立芸術大学、長岡造形大学や東京造形大学、成安造形大学などデザインと美術に着目している造形系大学、東北芸術工科大学や神戸芸術工科大学など技術と芸術を融合している芸術工科大学や芸術学部や美術学科を設置している総合大学もあり、多様な状況になっている。

文部科学省の学校基本調査によると、平成元年から平成30年まで大学の卒業生数は約1.50倍に増え、芸術領域の卒業生数約1.49倍に増え、美術領域は約1.79倍に卒業生が増えた。芸術・美術の就職率は大学全体の平均値を下回ったが、美術領域の就職率は増加傾向にある。そのうち、サービス業を選んだ方が最も多く、情報通信業、製造業、卸売業・小売業が続く。一方、進学については、全体的に増加傾向となっている。そのうちに、芸術・美術は人文科学と社会科学と比べて進学率が高い。特に、美術領域の進学率は大学全体の平均値を上回った。

#### 第2項 中国の美術大学の概要

中国には八大美術学院がある。中央美術学院、中国美術学院、西安美術学院、魯迅美術学院、天津美術学院、広州美術学院、四川美術学院、湖北美術学院の八大美術学院である。1950年4月の中央美術学院の創立は中国の近代美術教育の幕開けとなった。八大美術学院の概要は表1-1に示す通りである。年間約1万人の卒業生を社会へ送り出し、彼らはアート業界で活躍している。

八大美術大学における大学の概要と卒業生の進路動向、キャリア教育・就職支援に関する情報について、各美術学院の2019年度版の『卒業生就職質量報告書』を用いてより以下の詳細内容に見ておこう。

### (1) 中央美術学院

中央美術学院は教育部直属の美術大学である。2019年卒の学部生は805人、その進路動向について、就職した者が68%であり、大学院や海外への進学が29%となっている。就職した者では「文化、体育、娯楽業」に就く者が32%程度であり、「教育」は22%となっており、この二つの割合は就職した者の半数を超えた。

就職支援・キャリア教育については、必修科目「大学生における就職・起業指導」を開講して加えて、求人情報、校内企業説明会、就職ガイダンス、インターンシップ、就職相談などがある。このような支援体制では卒業生の利用状況どうでしょうかについては、利用率の1位～3位は「就職指導課程（84%）」「求人情報（61%）」「校内企業説明会（60%）」となっている。一方、起業教育は、後述のとおり中国の大学キャリア教育において重視されているが、中央美術学院も様々なプログラムを充実させている。そして、卒業生の利用率の1位～3位も、「起業講座（38%）」「起業関連科目（37%）」「起業家交流会（26%）」となっている。2014年からは中央美術学院とポーリーインターナショナルオークション（北京保利オークション株式会社）、今日美術館、雅昌文化株式会社、北京匡時国際オークション株式会社、テンセント（北京）株式会社、レノボ（北京）株式会社、筑博設計株式会社、人民網株式会社、オグルヴィ（中国）の9つ企業が産学連携して、インターンシップセンターを開設し、仕事を体験する機会が提供されている。

### (2) 中国美術学院

1928に創校した中国美術学院は、中国で最初の国立美術学院である。2019年卒業した学生数は1,679人である。卒業半年後の進路内訳をみると、「正規雇用となったもの」は44%、起業している者が4%、自由就職者が10%を占めており、大学院や海外への進学者は26%程度である。

キャリア教育については、全学年向けの必修科目「大学生の就職・起業指導」を開講している他に、2～3科目の選修選択科目「起業教育」もある。教育体制ではキャリア教育の支援に関する資格を持つ教職員を25名確保している。就職支援では、大学生起業インキュベーターを整備している他に、杭州娃哈哈株式会社、得力株式会社、広博株式会社、雅莹株式会社、寧波博洋服装株式会社の5社と産学連携して、インターンシップセンターを設置している。

### (3) 天津美術学院

天津美術学院の前身は北洋女師範学校で、1906年6月に中国近代有名な教育家の傅増湘先生によって創立された。1980年に天津美術学院と改名した。

2019年度の学部卒業者数は1,092人であり、進路については7割の卒業者が「就職」であり、「進学」が18%となっている。その「就職」の内訳では、「正規の職員となったもの」は4割となっており、残り6割はフリーランスや起業活動の「柔軟な働く方」となっている。働いている業界としては、「文化、体育、娯楽業」「教育」「製造業」の順になっている。

### (4) 魯迅美術学院

1938年に延安で魯迅芸術学校が設立された。1948年に瀋陽へ移転して、1958年に現在の名称である魯迅美術学院となった。2019年度の学部卒業者数は1,632人である。進路の内訳について、就職のタイプをみると「柔軟な働き方」が6割を占め、「進学」は1割であった。「未就職」の内訳は、「進学準備中」が5割程度となっている。就職先の業種をみると、「IT・ソフトウェア・情報処理業」と「製造業」に就職している学部卒業者が6割を占めた。

キャリア教育では、魯迅美術学院編の教科書『美術学院大学生の就職と起業指導』が使用され、キャリアプラン・進路選択・就職環境の分析・起業準備・起業チャンスの発見・起業実践などの内容が含まれている。2019年には10名の専任教職員（教員8名、職員2名）が配置され、大学生向けに起業相談・起業指導を行っている。また、卒業した学生が相談ボランティアとして支援している。

就職支援では、「大学生就職指導センター」が設立され、校内企業説明会・筆試・面接の専用場所となっている。その他、産学連携「大学生起業インキュベーター」、アニメーション学科と大連市芸術系大学連盟、大連旅順太陽溝文化産業園区と連携する「コンテンツセンター」、染織服装デザイン学科×北京愛慕株式会社やビジュアルデザイン学科×大連安盛資産管理株式会社、中国画学部×瀋陽光の影デザイン会社との連携、カリキュラムの提案やインターンシップの提供など人材共同育成に参画している。

### (5) 西安美術学院

西安美術学院は中国西北部唯一の美術専門大学である。2019年度の学部卒業生は1,437人であり、「就職」と「進学」のように明確な者は8割となっており、他の2割は進路不明である。就職した者は「美術・デザイン・クリエイティブ」職と「中小教育」職が半数以上を占めた。また、油画学科では卒業生の5割が「未就職」となっている。

大学では、独自のキャリア教育の教科書『大学生の就職・起業指導』『大学生キャリアプランと就職・起業指導』を出版し、使用している。また、「起業指導」「起業教育科

目」「起業実践プログラム」「大学生の起業コンテスト」など様々な起業教育を展開している。就職支援については、校内の大学生起業インキュベーターが設置されている。

#### (6) 湖北美術学院

湖北省武漢市にある美術専門学校で、前身の「武昌芸専」は中国で最も早期に設立された私立の芸術教育学校であった。1985年、湖北芸術学院の音楽部と美術部の両学部のうち美術部が独立し、公立「湖北美術学院」となった。

2019年度の学部卒業生数は1,717人となっている。大学全体の就職率は92%となっており、そのうち「柔軟な働き方」が5割程度である。「進学」した者を学科別に見ると美術学科と中国画学科が最も多い。

キャリア教育では、2014年から全学年の履修科目「就職指導」が開講されている。加えて、大学三年生向けにクリエイティブを育むための演習科目（必修）もある。芸術系の卒業生では、フリーランスや個人事務所に就く者が多いため、就職支援として学内の大学生起業インキュベーターを整備している。

#### (7) 四川美術学院

重慶市に立地する芸術専門大学で、1940年設立された「四川省立芸術専科学校」が前身である。1950年、南虹芸術専科学校と合併し「成都芸術専科学校」となった。1953年、西南人民芸術学院と合併し「西南美術専科学校」となった。1959年に現在の「四川美術学院」の校名となった。

2019年度は1,756人の学部生が卒業した。「就職」の特徴を学科別を見ると、アーティストに進んでいる卒業生は絵画系が多く、デザイン系は「雇用」という形が多い。

就職支援では、校内の起業インキュベーターがある。加えて、起業講座や起業相談、起業塾、起業コンテストに取り組んでいる。4名の相談アドバイザーを配置し、起業塾（定員制・単位あり）の講師も担当している。

#### (8) 広州美術学院

広州美術学院は中国華南地区で唯一の美術専門大学である。1953年「中南美術専科学校」が創立されて、1958年に「広州美術学院」に改称された。

2019年度の広州美術学院の卒業生数は1,310人である。就職の内訳をみると、「正規雇用」に就く者は6割近くとなっている。働く業界では「文化芸術領域」の「専門職」に集中している。キャリア教育としては、2学年2単位の選択必修科目「大学生職業発展と就職指導」（1年次生～3年次生）と「大学生起業基礎」（4年次）を開講している。就職支援では、大学生起業インキュベーターを設置している。



## 第2節 キャリア教育の経緯と現状

### 第1項 日本の大学におけるキャリア教育の取り組みの経緯

日本においては、1999年12月の中央教育審議会（中教審）答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の第1章で、「学校教育と職業生活の円滑な接続を図るため、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育（キャリア教育）を発達段階に応じて実施する必要がある」と記され、「キャリア教育」という言葉が初めて公式に使われた。

文部科学省はキャリア教育総合計画「若者自立・挑戦プラン」を打ち出し、その「基本方針」として①大学の在学生からフリーターまでの「若年者」を幅広く対象とした総合的な支援施策を展開することであり、②効率的・効果的な施策の展開のために、関係府省や企業等の協力・連携の積極的な促進である（文部科学省2003、p.2）の2点を示した。

中央教育審議会は、2009年に大学教育の質保証と学生支援の充実において、「キャリア教育」と「職業指導（キャリアガイダンス）」を以下のように用語解説した。「キャリア教育」とは、社会的・職業的自立に向け、必要な知識・技能・態度をはぐくむ教育。より詳しくは「一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な知識・技能・態度をはぐくむ教育」のことである。「社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）」とは、各大学の実情に応じて、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教育課程の内外を通じて行われる指導又は支援であり、具体的には教育方法の改善を通じた各種の取組のほか、履修指導、相談・助言、情報提供等が想定されるとした（中央教育審議会2009）。2010年2月25日に大学等の就職支援の充実が改正され、翌年4月1日に施行された大学設置基準によって、カリキュラム内外を通じた「社会的・職業的自立に向けた指導等（キャリアガイダンス）」が制度化された。

加沢（2012）は、「学生の就職担当部門であった『就職部』や『就職課』は就職指導や就職情報・資料の提供を自らの担当業務としていたが、全学のキャリア開発支援の中核組織として、役割・業務を拡張するために、『キャリアセンター』『就職・進路支援センター』などへ名称を変更して新しい大規模な組織を立ち上げた（加沢2012、p.8）」と述べている。

文部科学省は、2013年に「体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議」を設け、2013年8月には「インターンシップの普及および質的充実のための推進方策について意見のとりまとめ」を公表した。その「はじめに」において「インターンシップは、大学における学修と社会での経験

を結びつけることで、学生の大学における学修の深化や新たな学習意欲の喚起につながるとともに、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる有益な取組である」と記し、大学におけるインターンシップの取り組みの重要性やその活用を求める緊急性が見えている。また、キャリア教育から就職まで一貫して支援する体制の強化、インターンシップ活用の推進等が提言されている。

## 第2項 中国の大学におけるキャリア教育の取り組みの経緯

中国のキャリア教育の源流は、1916年に当時の清華大学学長周寄梅と中華就職教育社がヨーロッパからキャリア教育に関する理論を清華大学に導入し、研究や実践を行ったのが始まりである。しかし、戦争のため、中国のキャリア教育の研究は中断された。1949年10月1日に建国された中華人民共和国は、鄧小平政権までの間、計画経済制度を実施し、大学卒業生の進路は国家によって決められてきた。こうした中、キャリア教育の研究がそのまま停滞した（劉献文，李少芬 2007、p.94）。

1993年、中国共産党中央政治局、国務院は『中国の教育改革と発展綱要』を発表し、大学卒業生が“職業選択を自分で行う”の明確化を示した（孫曉慧 2014、p.111）。2000年10月、北京市学生連合会は、中国人民大学、清華大学、北京大学との「2000年（度）大学生の職業生涯計画」活動を発起し、大学におけるキャリア教育を試行した。これ以降、授業科目として「就業指導」や「生涯教育」を開講する中国の大学が増え続けている。2007年に国務院が発表した『大学生職業発展と就職指導課程に関する要求』により、「すべての高等教育機関では必修科目として就業指導に関する課程が設置されること」が規定された。2012年8月1日、中国教育部办公厅（文部科学省総務庁に相当）から「大学における起業教育の基本要求（試行）」の通告により、「大学で起業教育を進めるのは、経済発展の転換を推し進めて、イノベーションと人的資源に富んだ国を建設する戦略的な措置であり、高等教育改革を深め、人材育成の質を高めて、大学生の全面的な成長を促進する重要な経路であり、起業を通じて就職を引き上げ、大卒者の十分な雇用を促進する重要な施策である」と明示された。

「就業指導」については、大学によって「職業指導」「就業指導」「生計指導」「進路指導」「生涯指導」など呼び方は様々である。主に大学が大学生に職業生涯計画、就業観、就業能力の育成・スキルアップに関するカリキュラムと指導を展開する。

近年は、卒業生向けに就職のための指導を行うのみならず、新入期から卒業までの大学4年間に職業生涯設計(Career Planning)教育を行う方向に拡大している。大学教育における職業生涯設計(Career Planning)教育とは、20世紀60年代欧米に端を発し、その後就職指導となったものを、さらに発展させたものである。丁聰(2009)は、大学生の職業生涯設計(Career Planning)について、主観的および客観的な要因と環境の理解に基づ

いて自己分析を行う。今後の自分の働き方や、理想像などを目標に設定して、その目標を達成するために、対応する授業の履修や自分に必要なスキル・経験を積むなど計画を立てること。さらに、明確な計画に従って、目標のプロセスを達成するためにさまざまな前向きな行動の過程（丁聡 2009、pp.7-8）」と解釈している。これらは、「キャリアプラン」として理解されるのが適切である。

大学卒業後の進路選択は、就職や大学院進学以外にも、起業という選択肢が若者の間に生まれている。年間 800 万人前後となる大学卒業生の就職状況を改善するため、中国政府は起業という新たな選択肢を設け、イノベーションの創出を戦略的に支援するようになった。その支援策こそが、「大衆創業、万衆創新」（大衆の起業、万人の革新）である。2014 年 9 月の夏季ダボス会議で、李克強総理は「大衆創業、万衆創新」をテーマとしたスピーチを発表し、翌年の 2015 年にはスタートアップ支援策としての「大衆創業、万衆創新」政策を打ち出してきた。多くの大学において、起業教育はキャリア教育の一環として位置付けられ、起業ガイダンスや起業イノベーションセンターなどが設立されている。

## 第 2 章 先行研究・課題の整理

### 第 1 節 日本の先行研究

#### 第 1 項 日本の大学キャリアサポートの取り組みについての研究

キャリアサポートとは、具体的にはどのような内容が含まれるかという点に関して、大森（2017）は、労働政策研究・研修機構『大学・短期大学・高等専門学校・専門学校におけるキャリアガイダンスと就職支援の方法－就職課・キャリアセンターに対する調査結果－』を参照して、大学の学生に対するキャリア支援の取り組みは「キャリア形成支援」と「就職支援」という二つの内容に分けられるとしている（大森 2017、p.49）。「キャリア形成支援」とは、生涯を見据えた進路・職業選択やキャリアのデザイン（生き方や進路の設計）、職業的能力の育成を援助する教育的方策と定義されている。「就職支援」は、卒業後企業などに就職することを希望する学生に、就職活動に必要な情報の提供や業界・企業研究、面接、エントリーシートの書き方を指導すること、と定義されている（大森 2017、p.49）。

「キャリア教育」が正式に使用されてから 5 年後、日本の大学におけるキャリア教育制度の導入状況について、那須（2004）は中部、関西、九州の代表的 9 大学を対象に事例研究を行った。キャリア教育の特徴ある方式（制度）は、①教員と職員を一体化したキャリア組織（広島大学(専任教員)、福岡大学)；②キャリア科目の豊富な設置（立命館大学）；③豊富なキャリアアップサポートシステム（龍谷大学）；④学生総合相談の全学的集約（名古屋大学）；⑤オムニバス方式キャリア科目（九州大学、立命館大学）；

⑥キャリア教育における学生の活用（龍谷大学）；⑦キャリア教育調整委員の設置（福岡大学）；⑧インターンシップの大規模な実施（立命館大学）；⑨学生との丁寧な面談（広島市立大学、広島修道大学）；⑩教務課でのインターンシップ実施（中部大学）と整理された（那須 2004、p.94）。

日本の大学における就職支援のあり方が、3、4年次生を対象としてきた就職支援から1、2年次をも対象にふくめたキャリア形成支援へ動き、企業への就職に加えて支援の対象を公務員や教員、大学院進学、編入学、留学など卒業後の様々な進路選択・決定へと拡大しているが、体系的・組織的なサービスの提供は課題である（川崎 2005、p.45）。

また、川崎（2005）では、日本の私立大学が取り組むキャリア形成支援の内容としては、「セミナー・講演会」（83.2%）、「インターンシップ」（72.6%）、「正規科目の開設」（51.8%）、「キャリアカウンセリング」（59.9%）などとなっている。キャリア形成支援の実施にあたって得ている外部からの協力は、「企業・産業界の協力」（59.9%）、「外部の専門機関の協力」（59.1%）、「OBOGなど外部の大学関係者の協力」（48.9%）としている。講師陣としても、各業界・職種の実務家（65.7%）、キャリア形成の専門家（58.0%）、教員（58.0%）、OBOG（50.4%）といったように、広範にわたる人材が活用されている、という日本のキャリア形成支援の取り組みの現状が整理された（川崎 2005、p.47）。

キャリア教育科目の学習内容については、中里（2011）が、2010年度にキャリアという名前を付したキャリア教育科目が開講されている大学の中から50大学を選択し、調査を行った。その結果、「キャリアデザイン概論」「キャリア形成論」「キャリアプランニング」等の科目の学習内容は、取り入れられる高い順から①社会認識・社会情報の収集、②自己理解・自己分析、③就職観の育成、④キャリアプランの作成、⑤就職支援、⑥大学生活の充実、⑦社会人基礎力の育成、⑧キャリア論の理解という概ね8つのカテゴリーに分けられることが明らかにされた（中里 2011、p.181）。

大森（2017）は、センターの学生への働きかけに対して応じてこない学生や、センターで提供するサービスを受けるには十分なレディネスをもっていない学生が現行のキャリアガイダンスや就職支援の難点と指摘している。

## 第2項 日本の美術大学のキャリアサポートの取り組みについての研究

日本では美術系・芸術系大学のキャリア教育、あるいはキャリアサポートに関する研究は少ない。こうした中、森田（2015）は、佐賀大学における、「佐賀大学 芸術学部（仮称）設置に関するニーズ調査」のデータ分析を行っている。これによれば、新入生キャリア教育として、どの業種においても採用選抜の第一ステップとして想定される「基礎学力の向上」「実社会で役立つ礼儀やマナー習得」「一般的なジェネリックスキル育成」の3点に加えて、就職年次におけるキャリア教育として、作家以外にどのような業種や企業

で大学時代の学びを活かし活躍できるのかを提示していく必要があると指摘している(森田 2015、p.129)。そして、就職支援の段階においては、定着面での不安・集団行動が苦手といった芸術系学生に対するイメージを払拭するような自己 PR を作成するサポートも必要となる、とし、芸術系学部キャリア教育を概念的枠組みに示している(森田 2015、p.135)。また、芸術系学部の学生に対する有効な就職支援について、「低学年から美術・工芸以外の世界と関わることができる機会の提供」「経済的自立の必要性認識を促す取り組み」「就職は美術・工芸との新しいかわり方のスタートとなることを伝える」ことに取り組む、と述べている(森田 2016、pp.160-162)。

## 第 2 節 中国の先行研究

### 第 1 項 中国の大学のキャリア教育・就職支援の取り組みについての研究

中国における大学のキャリア教育がどのように展開しているのかを明らかにするために、張任(2015)は、一般総合大学(B 大学)、国家直属重点大学(S 大学)、一般専門性大学(Y 大学)の 3 校を選んで、大学のキャリア教育の展開状況に関するアンケート調査を行った。アンケート調査は 3 大学の在学大学生 500 ずつ、全部で 1,500 を対象として行なった。大学キャリア教育の内容については、3 大学とも比較的多様な形式で、表 2-1 に示すように、キャリア教育課程、就職報告会と座談会、就職情報の提供、就職心理指導、求人先の募集会、就職政策と法律の説明会、インターンシップ、1 対 1 の就職指導、仮面接練習、求人先への推薦などを展開している。また、3 つの大学のキャリア教育関連部門の責任者にインタビュー調査も行った。

一般総合大学(B 大学)は 1999 年の大学合併とともにキャリア教育を展開して、最初は選択科目を設置し、2011 年頃必修科目になった。現在の課程で開講されている科目には必修科目と選択科目の両方ある。2010 年に「就職工作部」を設置した。メンバーは学生生活指導員と専門教師の 2 者によって構成され、中でも学生生活指導員が多数を占める(張 2015、pp.67-68)。

国家直属重点大学(S 大学)は、2002 年にキャリア科目の履修を開始した。最初は選択科目しか開講されなかったが、2012 年以降は必修科目が開講され、現在の課程では必修科目と選択科目の両方が開講されている。専門のキャリア教育部門は 2002 年に設置され、名称は「学生就職と発展サービスセンター」と呼ばれている。メンバーは事務職員、学生生活指導員と専門教師の 3 者によって構成されている(張 2015、p.68)。

一般専門性大学(Y 大学)では、2009 年からキャリア科目の履修が展開されている。現在に至るまでは選択科目だけが開講されている。専門のキャリア教育部門はなく、大学の教務部がキャリア教育に関連したことを管理する。キャリア教育の活動内容は比較的多様であり、校外顧問を招いた座談会などが多い(張 2015、p.68)。

## 第2項 中国の美術大学のキャリア教育・就職支援の取り組みについての研究

中国でも、美術大学のキャリアサポートの取り組みに関する研究は少ない。こうした中、美大生における就職意識の分析研究と起業教育モデルの考え方についての研究が多い。

まず美術大学における起業教育モデルの研究について、劉栄（2017）は中国の八つ美術学院（美術単科大学）における起業教育の特徴を、以下の3点に整理している（劉栄2017、pp.92-93）。

- ①全学生に向け一般教養課程を開講する方法（必修・選修・実践科目を開講：西安美术学院、中央美术学院、中国美术学院；選修科目を開講：天津美术学院；実践科目を開講：湖北美术学院）（p.92）。
- ②起業希望者向けの理論・実践教育を行う方法（四川美术学院、広州美术学院）。
- ③起業教育をカリキュラム（専門科目）に導入する方法（魯迅美术学院）。

起業教育に従事する教職員について、劉栄（2017）は以下の三つタイプに分類している（p.93）。

- ①専任教員・カウンセラー職員・企業家ゲストが起業教育を担当する大学（西安美术学院、中央美术学院、中国美术学院、四川美术学院）。
- ②座学授業は起業センターに所属する教員・各分野の専任教員に加えて、カウンセラー職員も兼任する大学（広州美术学院、魯迅美术学院）。
- ③企業家やデザイナーなどゲスト講座を中心する大学（天津美术学院）。

朱娜（2012）は、四川美术学院を事例として、美術系大学の大学生における就活の現状（問題点）と指導対策に関する研究を行っている。それによれば、

- ①新入生向け各専攻・分野に関する「学業ガンダンス」が設けられている。
- ②大学で早い段階から起業意識の育成。その他、理論学習とインキュベーターや起業イノベーションセンターの実践に組み合わせている。
- ③一方、卒業生の情報網づくりはキャリア教育の重要な一環として、起業したくない学生には、美大の卒業生の進路情報を収集、就職地域、企業タイプ、給料、転職など真実的な情報を整理し参考にしてもらうよう促している。といった3つの特徴を指摘している。

## 第3節 中国における日本のキャリア教育・就職支援に関する先行研究

中国では、他国のキャリア教育施策に関する研究も行なわれており、日本のキャリア教育についての研究も複数ある。娜琳（2007）は、日本への大学キャリア教育についての調査を行い、日本の大学の就職支援における法律面・制度面の整備に加えて、体系的な指

導方法などは、中国のキャリア教育に対して参考にすべき重要な価値があると述べている（娜 2007、p.47）。

楊凡（2007）も、日本の大学は、キャリア教育に対する理念、形式、内容を改革して、大学教育にも大きな影響を与えていると指摘している。「雇用」と「教育」を中心とした日本の大学教育が直面する問題は中国とよく似ている。これらは今後の中国の大学教育が取り組むべき課題の一つである、と指摘する（楊 2007、p.145）。

また谷晶（2009）は、修士論文「中日両国の大学生における就職指導の比較研究」の中で、中国の就職支援はまだ手探りの段階なので、全面的に日本の大学の就職支援を分析して、中国の大学に合う就職支援のモデル構築に意義がある、と述べた（谷 2009、p.3）。

#### 第4節 中国のキャリア教育・就職支援の課題に関する研究

中国のキャリア教育・就職支援の課題について、様々な先行研究にもとづき、各研究者が以下のような指摘を行ってきている。

美術学院（＝美術大学）のキャリアサポートの課題に関して、王利軍（2009）は、天津美術学院を事例として、美術系大学の大学生キャリアプラン（職業生涯設計）の現状を調査した。その結果、「キャリアプランの意識はあるが、その作り方がよく分からないし、就活で起こる「困ること」に対する解決能力が弱い。キャリアプランの重要性もわかっているが、自己理解が不足、キャリアプランを明確化することができていない。キャリア教育の仕組みの欠如のため、指導力が大変に不足しており、キャリア教育が滞っている。」と指摘している（王利軍 2009、pp.14-18）。現在では、中国の大学のほとんどが、正規科目「就職指導」を開講しているが、カリキュラムが均一化し体系的なキャリア形成の方法が習得にくい（孔夏萌 2013、p.58）。

叶扶荣（2014）は、国家の規定により、大学はキャリア教育に取り組むようになったが、それにもかかわらず、就職支援室やキャリア支援室を設置してこなかったし、体系的なキャリア教育に関するカリキュラムも設計せず、消極的にキャリア教育を行っている。現在における、美大生向けの就業指導は講義形式の授業が多い。開講の目的はただ就職率を上げることであり、講義内容は就職政策の分析、面接対策、就活マナーを中心にする。授業の担当者はは企業で働いた経験が少なく、起業もしたことがない事務系職員が多い、と指摘する（叶 2014、pp.48-49）。

また、河南大学は 2007 年の『大学生職業発展と就職指導課程に関する要求』によって、正規科目（全学共通）「職業生涯計画」（2 単位、36 コマ）を設置したものの、専門教科書がなく、ただ『大学生職業発展概要（大学生职业发展导论）』と参考教材『大学

生職業発展と就職指導の資料集（大学生职业发展和就业指导教学指南）』を使っていた（韓柳研 2014、p.23）。

正規科目「就業指導」の現場では、今のところ中国の大学には学部・学科を分けずに合わせて授業することが多くうちに、単位を取るために履修しまった大学一年生が少なくなかったが、本格的に就活する時に、知識はもう活用できなかった（何方 2016、p.53）。

### 第3章 研究方法

#### 第1節 先行研究における到達点と本研究の研究課題

本研究の目的は、中国の美術大学のキャリア教育、就職支援に対する日本からの示唆をもとに、中国の美術大学キャリア教育、就職支援の改善の方向性について明らかにすることである。

中国の先行研究によると、中国の美術学院のキャリア教育・就職支援においては様々な課題があると指摘されてきた。他方、中国における日本の大学の就職支援やキャリア教育の取り組みに関する先行研究では、日本の取り組みには、中国の大学の就職支援、キャリア教育に対して参考にすべき重要な価値がある、と指摘されている。しかしながら、中国の美術・芸術系大学においてどのようなキャリア教育を実施すべきか、どのような就職支援を行うべきかについては十分に明らかにされていない。

一方、日本の先行研究をみると、美術系大学のキャリア教育に関する研究は少なく、2010年以降に日本で公開されている論文は「キャリアデザイン形成過程の研究－芸術系大学生の進路選択」（生駒 2010）「芸術系大学の就職支援を読み解く－就労をめぐる語りに着目して－」（居郷 2012）、「芸術系大学出身者と労働」（貴始 2014）、「産業界ニーズから見た芸術系学部におけるキャリア教育の在り方」（森田 2015）、「芸術系学部の学生に対する有効な就職支援について」（森田 2016）わずか5本にとどまっている。

そこで本研究では、まず日本と中国の美術大学がどのような支援・指導しているか実態を把握する。次に、両国の取り組みを比較分析し、日本の取り組みの中から、中国の美術学院に応用可能な取り組みを検討する。

#### 第2節 日本の美術大学におけるキャリア支援の実態把握

日本における先行研究では十分に研究されていない美術大学におけるキャリア支援の実態を把握するために、本研究では主に文献調査とメール調査を実施することとした。



## 第1項 文献調査

文献調査では、日本または中国で公開された各種資料や政府データおよび論文データベースを用いた。まず、日本と中国の大学キャリア教育に関する論文等を整理し、両国のキャリア教育、就職支援の特徴を整理した。また、日本の文部科学省の学校基本調査の「卒業後の状況調査」を参考にして、日本の大学生と美術・芸術大学における卒業生の進路傾向の特徴を把握した。

次に、第4章で示す通り、日本の美術大学・芸術大学に加えて、美術学科を設置している総合大学を選定し、詳細な調査を実施する。各大学のホームページで進路・就職に関する情報を詳細に調査したうえで、具体的には、単科美術大学として武蔵野美術大学、多摩美術大学、横浜美術大学、美術以外に音楽学部等を持つ芸術大学として京都市立芸術大学、総合大学として九州産業大学、日本大学という3グループに分け、調査と分析を進めていくこととした。

3グループの大学を選択した理由を以下簡潔に説明する

### <単科美術大学>

武蔵野美術大学と多摩美術大学は日本のトップクラスの美術大学だけでなく、中国の美術留学生にとっても希望者が多い大学となっている。また、事前の資料調査によって、キャリア教育科目を必修科目として開講している単科美術大学は横浜美術大学のみであることがわかったので、調査対象とした。

### <芸術大学>

京都市立芸術大学は、就職支援を行なう一方で、芸術活動支援も実施している。また、美術と音楽の領域のアドバイザーを配置している点も特徴的である。

### <総合大学>

九州産業大学、日本大学は、いずれも、キャリア教育・就職支援に熱心に取り組んでいる大学である。大学共通の支援プログラムのみならず、芸術学部で独自の支援プログラムも展開している。

## 第2項 メール調査

メール調査では、単科美術大学、芸術大学、総合大学の3グループの各大学のホームページで公開されているキャリア教育の情報を把握した上で、キャリアセンターの設置経緯や大学生の利用状況など詳しく状況におけるキャリアセンターの担当者に対してメール調査を行うこととした。調査の結果は次の第4章に記す。

## 第3項 中国の美術大学におけるキャリア支援の実態把握

中国の八大美術学院（＝美術大学）のキャリア教育の現状を把握するために、各美術学院で公開された『就職質量報告書』に基づいて、卒業生の進路傾向や就職支援およびキャ

リア教育に関する情報を分析する。また、調査にあたっては、各美術学院の WeChat 公式アカウントで発信されている情報をもとにイベントの開催情報も参照する。あわせて、日本と中国の美術系卒業生の進路傾向、美術大学の就職支援とキャリア教育を比較する。これらの結果は第5章に記す。

#### 第4項 中国のキャリア支援に対する日本から示唆

中国の大学が提供しているキャリア支援としては起業教育が熱心な取り組みとなっている。一方、日本の大学ではグループワーク・ゼミ形式の授業、調査・実習・発表重視の授業、インターンシップなどが効果的に活用されている。また、民間企業においても職場見学やインターンシップを積極的に進んでいる。中国の先行研究によれば、日本のキャリア教育・就職支援は中国が参考にすべき価値があると指摘されている、美術・芸術系大学においてどのような仕組みが参考にできるのかについては、まだ明らかにはなっていない。

そこで、第2章で整理した中国の先行研究で指摘されている代表的な課題をいくつか選び出し、それらの課題に対応する、第4章で詳細調査した日本の3グループ大学の取り組みを比較し、中国の美術学院（＝美術大学）の関係者に対し、日本の取り組みの応用可能性についてメール調査を行う。その結果は第6章に記す。

### 第4章 日本のキャリア教育・就職支援の現況についての調査結果

本章では、ほとんど調査や分析が行われていない、日本の美術系大学におけるキャリア教育・就職支援の現況について、今回、筆者が行った文献調査の結果を整理する。

#### 第1節 日本の美術系大学のキャリア教育・就職支援の実態

##### 第1項 日本の大学におけるキャリア教育・就職支援の調査概要

筆者は、芸術・美術学部があり、絵画などのファインアート分野の学科等を設置した日本の美術大学、芸術大学、総合大学において、どのようなキャリア教育が展開されているか、どのような就職支援が実施されているかについて文献調査を行った。調査結果の概要は表4-1に示すとおりであり、37校のうち、13校がキャリア教育関連の科目授業を実施しており、そのうちの3校のみが必修科目として開講していることがわかった。

そして、キャリア教育関連の科目授業を実施している大学において、具体的にはどのような内容の科目が開講されているか、また、科目授業以外にはどのような支援体制があるかを調査してまとめた結果が表4-2である。

## 第2項 日本の大学におけるキャリア教育・就職支援の事例調査

### (1) 武蔵野美術大学

武蔵野美術大学の学部教育課程は2学部13学科であり、在学者4,308人がいる(2019年度)。インターネット上の公開情報に対する調査(以下「インターネット調査」)によれば、就職支援の体制として、全学年向けに「進路・就職講座」を開講するほか、学部3年・院1年向けに「進路・就職ガイダンス」や「ポートフォリオ作成支援プログラム」「業界・職種研究会」「就職対策講座」「学内会社説明会」を実施している。

詳細事項についてメール調査を行ったところ、現在のキャリアセンターが確立した経緯と活動内容は以下のとおりであった。2016年にスペースの拡張と面談ブース等の改修工事を際に、長年使ってきた「就職課」の名称を「キャリアセンター」に改称している。現在では専任職員5名、臨時勤務者2名、派遣職員1名、キャリアカウンセラー2名の計10名の職員が学生にサポートを行なっている。キャリア教育・就職支援に関連する科目としては「キャリア設計基礎」、「インターンシップ演習Ⅰ・Ⅱ」を開設している。さらに、授業科目の履修者に対して海外インターンシップも実施している。学内の各種ガイダンスへの参加状況をみると、個々の企業の説明会よりも、ポートフォリオ指導会の参加者が多く、特に絵画系の学科の学生が多く参加している。メール調査に回答したキャリアセンターの職員は、1・2年生は就職活動というよりも採用試験のポートフォリオを念頭に作品制作に励み、またインターンシップにも積極的に参加して、3年生になったら早めに就職活動が出来るように準備しておいてほしい、と述べている。

### (2) 多摩美術大学

多摩美術大学は美術学部のみ10学を設置しており、2020年度学部の在学者は4,451人である。インターネット調査によると、3年次を中心に、低学年次からそれぞれの段階や状況に合わせたガイダンスや講座などを実施している。1・2年次より卒業後の進路を意識し、学生生活の過ごし方を考えることを目的とした「進路ガイダンス」「キャリアガイダンス」「就職ガイダンス」を実施している。3・4年次対象に希望の進路につけるよう、より具体的な内容の「教員希望者・学芸員・進学希望者・留学希望者のためのガイダンス」「各種業界・職種・企業研究講座」「各種試験対策講座」などを実施している。

メール調査の結果にもとづけば、2019年4月より就職課からキャリアセンターに組織変更されたばかりとのことであった。就職課の時代から業務としては就職だけではなく、作家活動、進学など進路全般を支援していたが、名称変更することによって対外的にも進路全般を支援する部署であることを伝えることが目的である。キャリアセンターには、教員は配置されておらず、正職員(管理職除く)4名、嘱託職員1名、非常勤嘱託職員2名から構成される。普段は、キャリアセンターで行われる個別相談に関しては4年生の利用が多く、特に4年次の前期がピークとなっている。利用者を学科別を見ると、グラフ

ィックデザイン学科、統合デザイン学科、絵画学科の順で多く、相談内容については書類の添削（履歴書・エントリーシート）が最も多い。各種ガイダンス・講座については、全体に向けた「進路・就職ガイダンス」の参加者が一番多く、今後もキャリアセンター主催の講座を増やしていく予定になっている。

キャリア教育を進めるうえで、一番困っていることは、キャリア授業の科目を実施しているわけではなく、すべて授業外に実施しているため、学生たちの自由参加が中心となってしまうので継続したワークショップなどの実施が難しい点であると述べている。

### （3）横浜美術大学

横浜美術大学の2020年度の学部在学者は817人で、そのうちの4年生は168人である。インターネット調査によれば、キャリア教育として、1年次から4年次まで年次別に必修科目「キャリアデザイン」を開講している。また、新入生のキャリアガイダンスやポートフォリオ制作講座、就職活動・大学院進学に向け各種ガイダンス・学内説明会・企業説明会、面接実践講座、資格取得支援などを実施している。

### （4）京都市立芸術大学

京都市立芸術大学の美術学部には、美術科、デザイン科、工芸科、総合芸術学科の4学科が設置され、総定員は540人である。

インターネット調査によると、就職活動に関する「就職支援」に加えて、芸術活動希望者が各種相談を行える「芸術支援」も整備されているのが特徴である。

メール調査によれば、キャリアデザインセンターは2014年度の公立大学法人化を機に、従来から取り組んできた就職支援の充実を図るとともに、芸術家を目指す学生のキャリア支援を行うことを目的として設置された。キャリアデザインセンターでは、センター長・事務長・事務係長・係員は各1名（兼職）、就職相談員・美術アドバイザー・音楽アドバイザーは各1名（非常勤職員）、契約職員は1名でスタッフ9人が業務を行う。メール調査に回答した職員によれば、京都市立芸術大学のキャリア支援は各種ガイダンスの実施を中心に行っており、キャリア授業科目の開設計画は当面なさそう、と述べている。

### （5）日本大学芸術学部

日本大学芸術学部では、8つの学科を備えた芸術総合学部であり、美術学科は絵画コース（絵画専攻・版画専攻）と彫刻コース（彫刻専攻・地域芸術専攻）が設置されている。芸術学部の在学生数3,834人のうち、美術学科の在学生数は254人である。

インターネット調査によると、日本大学では各学部ごとの支援プランに取り組んでいる。芸術学部では各分野に応じた就職指導委員の教員による個別指導と就職指導課の全体指導の連携によって支援している。美術学科の就職指導員は教授1名が担当する。ま

た、就職指導に関する各種講座では、3年次には5月から通年で、就活に関する各種情報の提供や就活の具体的なやり方の支援を行なっている。さらに、各種試験対策や業界セミナー、合同企業セミナーなども実施している。1・2年次から段階的に「キャリアガイダンス」を開催している。

メール調査によれば、芸術学部には所属しているキャリア支援の教職員は4名とのことである。各種ガイダンスについては、履歴書・エントリーシート作成に関する講座の参加者が最も多い。キャリア教育における授業科目の開講計画は現在のところがない、と述べている。

#### (6) 九州産業大学

九州産業大学芸術学部には、5学科12専攻が設置されており、定員は500人となっている。芸術表現学科（定員65人）の下に絵画専攻（油絵・日本画・版画など）、立体造形専攻（彫刻・フィギュア・オブジェなど）、メディア芸術専攻（メディアアート・アニメーション・マンガなど）が設置されている。

インターネット調査によれば、芸術学部では全学共通のキャリア支援のみならず、独自のキャリア教育も実施している。まず、大学全体の全学共通のキャリア支援では、授業科目「キャリア形成基礎論（1年次生）」「キャリア開発論（2年次生）」「キャリア形成戦略（3年次生）」という3つ科目を開講して、講義内容としては、1年次前学期に社会環境の変化と企業ならびに職種の変化の梗概を教示する。2年次前学期の「キャリア開発論」では、業界研究として金融業、情報通信業、サービス業等の業界関係者に講義を依頼し、様々な社会経験から抽出された職業観に触れる。3年次後学期においては、就職活動を目前とした学生心理、採用側の心理、戦略を踏まえながら効率的就活を可能にする方法を教授するとともに、就職活動後の社会環境を踏まえ、今後の社会で求められる能力について再度言及している。

さらに、入学から卒業までの各学年に合わせたガイダンスや各種試験対策、各学部専任の担当者を配置し個別相談、就職活動のための旅費補助（関東地区：最大25,000円；中部・近畿地区：最大15,000円）など支援プログラムを行なっている。

次に、芸術学部では、独自のキャリア授業科目「QUEST演習」を中心に12の分野に実践プログラムとして取り組んでいる。1年次「QUEST演習A」は具体化し計画・実践する科目である。2年次「QUEST演習B」は課題発見の科目である。3年次「QUEST演習C」は芸術的な総合力で課題の解決に取り組んでいる。

## 第2節 小括

以上6つ大学に対する事例調査の結果を見ると武蔵野美術大学、横浜美術大学、九州産業大学の3校では単位化されキャリア教育科目が設置されていた。しかし、設置されていない大学でも、多種多様なガイダンス・研究会・対策会が実施されていた。

武蔵野美術大学と多摩美術大学の規模は10学科程度が設置され、学部在学者4,000人程度に達している。学部3年次を対象にする支援活動が多いが、低学年から「自分のやりたいこと」「自分のできること」という進むべき道を見つけるような指導活動の企画もある。特に、アート以外の世界と関わることができる機会が少ないため、「就職と好きなこと、やりたいこと（美術）という対立」や「一般の民間企業との距離感を実感」（森田2016、p.160）というイメージを持つ低学年の美大生に対して、実際のアート業界でどのような職業選択ができるかをテーマにするガイダンスや講座を通じてキャリア意識を引き出している。これにより、3年次から本格的な就職指導が始まる際に、就職活動への抵抗感や戸惑うことも減ずる効果があると考えられる。

総合大学の中に設置された日本大学芸術学部の在学者は3,000人ぐらいである。芸術学部では各分野に応じた就職指導委員の教員（教授・準教授）と大学のキャリアセンターの職員に連携支援体制に取り組んでいる。日本大学芸術学部では、キャリア科目を開講していないが、1年次からアート領域の業界紹介のガイダンスが始まり、3年次には5月から通年で、クリエイティブ系職種希望者必須のポートフォリオの作り方や多くの学部生が就職を希望するマスコミ業界研究、芸術学部周辺以外の業界解説など内容を含む就職総合講座が実施されている。九州産業大学芸術学部は定員500人であり、日本大学芸術学部に比べて小規模な芸術学部であるが、全学共通のキャリア支援に加えて、独自の必修演習もある。このように、キャリア教育と就職支援において、二つの総合大学芸術学部では低学年から多種多様な活動を企画し、学部別に専任のスタッフも配置していることが今回の文献調査で把握できた。

また、今回の文献調査を通して、日本のキャリア教育・就職支援において、広く普及している取り組みに「業界研究」と「OBOG訪問」があり、各大学においてそれぞれ重要な役割を果たしていることが明らかになった。これらの取り組みは、現時点の中国の大学ではほとんど実施されていないものと推察されるため、注目に値する。

美術大学における業界研究については、①広告代理店：総合広告会社、専門広告会社、ハウスエージェンシー、②デザイン業界：デザイン事務所、メーカーのインハウスデザイナー、③建築業界：建築設計事務所、ハウスメーカー、インテリア系会社など、④ゲーム業界：ゲーム制作会社、⑤映像・放送・演劇業界：テレビ局、映画・舞台制作会社など、⑥出版業界、⑦写真業界：デザイン事務所、出版社、撮影スタジオなど、⑧テキスタイル業界：アパレルメーカー、家具メーカーなど、⑨工芸・陶芸：工房、メー

カー、作家など、⑩絵画：美術館学芸員、ギャラリー、画廊、作家など、⑪教育・研究  
関連：学校、大学、美術館など、が主な業種となっている。

OBOG 訪問は興味がある業界や企業で働いている先輩を訪ね、実際の仕事内容や社内の  
雰囲気など、インターネットでは知り得ないリアルな情報を入手できるメリットがある。  
一方、卒業生を大学に招いて実施する OBOG ガイダンスは採用が決まるまでの経緯や体験  
談、実際の仕事の現況などを伝えることができる。

## 第 5 章 中国の八大美術学院におけるキャリア教育・就職支援

本章では、第 2 章で整理した中国の先行研究において指摘されている課題が、現時点で  
どのような状況にあるのかを文献調査の結果をもとに検討する。具体的には、各美術学院  
のホームページ、WeChat の大学公式アカウントで公開された情報や各美術学院の 2019 年  
度版の『卒業生就職質量報告書』に照らしながら、先行研究で指摘された課題が現時点ど  
のぐらい改善されたか、どのような課題が依然として残っているのか、さらにどのような  
新しい課題が出てきているのか、について比較分析を行う。

### 第 1 節 先行研究で指摘された課題と現状の比較

#### 第 1 項 キャリア教育の仕組み

##### (1) 先行研究で指摘されたこと

キャリア教育の仕組みにおける王利軍（2009 年）は「キャリア教育の仕組みの欠如の  
ため、指導力が大変に不足である」と指摘された (p.12)。5 年を経た叶扶荣（2014）は  
「就職支援室やキャリア支援室を設置してこなかったし、体系的なキャリア教育に関する  
カリキュラムも設計しない」と「授業の担当者はは企業で働いた経験が少なく、起業もし  
たことがない事務系職員が多い」と指摘されている (p.12)。

##### (2) 文献調査で明らかになったこと

叶扶荣（2014）では、中国の大学にはキャリア支援室が設置されていないと指摘され  
ていたが、今回実施した文献調査によれば、中国の美術大学ほとんどにキャリアセンター  
等の組織が設置されていた。

キャリアセンターの教職員の状況は、キャリア教育・就職支援の取り組みの充実度に直  
結している。今回実施した文献調査によれば、中国美術学院の教育体制としては、キャリ  
ア教育・キャリア支援に関する資格を持つ教職員を 25 名確保していることが確認でき  
た。魯迅美術学院では、2019 年の時点で 10 名の専任教職員（教員 8 名、職員 2 名）が  
配置され、大学生向けに起業相談・起業指導を行っている。また、卒業した学生が相談ボ  
ランディアとして支援している。四川美術学院の WeChat 公式アカウントには「大学生就

業創業問診室（就職・起業相談）」と呼ばれる個人相談の予約システムがあり、相談に応じている。人的体制としては、4名の相談アドバイザーを配置し、起業塾（定員制・単位あり）の講師も担当している。天津美術学院では、キャリア教育・就職支援の業務において専任教職員が担当しているのに加えて、大学生団体「天津美術学院就職指導協会」にも協力していることが分かった。このように、今回の調査によって、共通科目に担う専任教職員の配置だけでなく、資格を持つ専門者も積極的に活用してきており、指導力と支援内容においても段々と充実してきていることが確認できた。

今回の文献調査で把握した美術学院のキャリアセンターの教職員数に関して、教職員一人当たりの学生比率を計算した結果を示した表が表 5-1 である。中国美術学院では教職員一人当たりの学生比率が 1:237、魯迅美術学院では 1:659 となっている。この水準は、日本の美術大学と比べて劣っているという状況ではない。

就職支援室やキャリア支援室については、2007年に中国教育部が、すべての大学でキャリアセンターを設置するように要請してきたが、今回行った文献調査によれば、少なくとも量的な面からは体制が整ってきていることが確認できた。また、これらのキャリアセンター（就業指導中心あるいは就業創業指導中心と呼ばれる）は学生課の一つ部門として設立されているのが一般的である。加えて、今回の文献調査によって新たに確認できたことは、八大美術学院の多くが、大学生起業インキュベーターを整備していることである。

## 第2項 就職支援の開始が遅く、指導内容の幅が狭い点

### （1）先行研究で指摘されたこと

指導方法については、叶扶荣（2014）が「美大生向けの就業指導は講義形式の授業が多い（叶 2014、p.49）」という指摘がある一方で、何方（2016）は「学部・学科を分けずに合わせて授業することが多くうちに、単位を早めに取りため一年次の時に履修してしまった学生が少なくなかったが、本格的就活する時に、知識はもう活用できなかつた（何 2016、p.53）」という指摘もあり、ミスマッチが生じている。

### （2）文献調査で明らかになったこと

叶扶荣（2014）では、美術大学の就活に関する指導方法は講義授業が多いと指摘された。今回実施した文献調査によれば、指導方法は講義形式の授業だけではなく、演習的、実習的プログラムも行なわれるようになっているが、内容は「起業」領域に関するものに偏っている傾向がある。例えば、中央美術学院では年1回の「中央美術学院大学生创新创业計画<sup>1</sup>」（アイデアを事業化する・起業をめぐるインターンシップ）と呼ばれる起業支援プログラムが実施されており、プロジェクト選抜制度を使い、全校の大学生（学部・

<sup>1</sup>中央美術学院学生工作（WeChat 公式公式アカウント）：「错过等一年！中央美院创新创业训练计划来啦」（2020年12月04日発表）、2020年12月16日閲覧。



大学院)が参加できる。美術教育・デザイン・芸術テクノロジー・人文(芸術)・クリエイティブ・メディア芸術などのテーマ領域が含まれている。さらに、ワンチームで専門領域の指導教員1名・起業指導教員1名が配置される。プログラムは「資金支援」「経営指導」「ベンチャー起業の広報活動」となっており、起業に対して支援が行われている。プログラムの概要は表5-2に示す。中国美術学院では、本論文を調査する時第18回目の「スキルアップ研修」を行っていた(表5-3)。また、中国美術学院では、「スピーチと儀礼」「個人メディア運営」「子ども美術教育」などスキルアッププログラムが開催されているが、他の大学では関連領域のイベントが少ない。「就職活動に対する不安」「自営業や美術教室・美術予備校の経営の仕組みに関する知識不足」「正社員を目指したい者は企業の仕組みや業界・職種に関する知識不足」のような実感と戸惑いに対応した活動は、起業教育・指導・サポートと比べると少ないと思われる。

このように、現在の八大美術学院においては、就職活動時期だけでなく、全学年に対してキャリア支援プログラムが行われており、先行研究で指摘されていた時期と比べると状況は改善している。また、指導方法も講義形式だけでなく、実践を含む多様なプログラムが展開されている。しかしながら、内容的には卒業生の進路割合としては「就職」が多いにも関わらず、「起業」偏重の傾向が顕著である。

## 第2節 残る課題と課題に対する日本から応用可能な取り組み

### (1) 課題が残されているところ

前節では、中国の先行研究で指摘されてきた課題と今回実施した文献調査の比較により中国の八大美術学院のキャリア教育・就職支援の取り組みの現状を確認した。すべての大学にキャリアセンターが設置され、その教職員における量的には充実してきているが、指導効果がどのくらい改善されたのかについては、文献調査では明らかにならなかった。

キャリア教育において、八校の美術系大学はキャリアセンターを設置し、必修としてキャリア科目も開講している。さらに起業教育の編入、起業センター・インキュベーターの整備などを積極的に推進しているのは中国の美術大学のキャリア教育の特徴である。しかし、起業教育・起業支援に重点が置かれすぎ、実際には多数の学生の進路である「就職」に向けた支援が少ない。

中国の各美術学院では、起業支援に対して極めて熱心に取り組んでいるが、実際にどのくらいの卒業生が起業活動を行っているのだろうか。中国美術学院の2019年度版の『卒業生就職質量報告書』により、卒業半年後の進路調査データを見ると、起業した者は約4%に過ぎなかった。中国の八大美術学院の卒業生の進路動向においては「就職」を選ぶ者が多い。また、天津美術学院、魯迅美術学院、湖北美術学院の就職質量報告書を見ると、「就職」した者のうちの5割以上が「柔軟な働き方」であった。

## (2) 課題に対する日本から応用可能な取り組み

表 5-1 を見ると、日本では多摩美術大学の教職員一人当たりの学生比率が 1:635 程度で、魯迅美術学院との同じようなレベルである。武蔵野美術大学では 1:430 程度の計算結果となっている。こうした計算結果から見ると、中国のみならず日本においてもキャリア教育・就職支援の人的資源の不足という課題は存在している。しかしながら、日本では人手不足への対応策として、専任教職員を配置する以外に、京都市立芸術大学のように非常勤の就職相談員や美術アドバイザー・音楽アドバイザーに取り組んでいる大学もあるし、日本大学芸術学部のようなマイナビやリクナビ等人材情報会社から外部講師を活用して、業界研究や就職活動の対策に関する講座・ガイダンスを行う仕組みもあることが今回行った日本の美術大学に対する調査で明らかになっている。しかも、第 4 章で紹介した、今回調査した 3 グループの大学だけでなく、ほぼすべての日本の大学では業界研究・企業研究をテーマにする講座・ガイダンスを行っている。一方で、今回調査した 3 グループの大学には、低学年向けに最新の就職状況を踏まえて、今後の活動準備の進め方を説明する「就職活動入門講座」「進路・就職ガイダンス」があり、3 年次に入ると希望進路によって情報収集のやり方、各種試験の対策、美大生であれば就職活動の必須となるポートフォリオの作り方など企画に加えて、業界研究・職種研究を各大学の定番講座としているが、中国の大学側はこのような講座をまだ企画してはいなさそうである。

また、OBOG 訪問は実際に働いている社員の方々と 1 対 1、もしくは少人数でコミュニケーションができ、憧れの先輩や理想のキャリアモデルに触れることにより、働くことに対するモチベーションの向上につながるし、志望業界や志望会社に自分は合っているのかを知ることでもでき、大学生にとってキャリア形成に対して有利になるが、中国の多くの大学同窓会あるいは校友会のネットワークがうまく連携していないため、OBOG 訪問に対する意識が薄い現状である。

他方、中国の美術学院の卒業生の進路においては、柔軟な働き方が増加する傾向がある。各美術学院が「柔軟な働き方」にどのような支援を行っているかという点については、中国美術学院が、「スキルアップ研修“<sup>びび</sup>美美講堂”—美術教育教員養成研修」のような「教育」現場で美術教師としての専門性・授業力を高めるとともに、授業実践を振り返り、自身の成長・課題を明確にし、新たな授業づくりのヒントを得る、という支援プログラムを行っている例がある。しかし、他の 7 つ美術大学では、例がなさそうである。

このように、中国における先行研究と今回実施した文献調査の比較を通して、今なお課題となっている点については、第 4 章で紹介した日本の美術大学の取り組みが有効な場合もあるものと考えられる。前述のいくつかの課題に対して、日本における取り組みの中国での応用可能性を検討するために、中国のいくつか美術系大学にメール調査を行う。調査内容と調査結果は第 6 章に記す。

## 第6章 中国の大学へのメール調査とあり方提言

### 第1節 調査項目

本章では、第2章で紹介した中国の先行研究で指摘されている課題が、現在どうなっているかを文献調査によって確認したうえで（第5章）、第4章で紹介した日本の美術系3グループの大学に対する調査によって示された、キャリア教育・就職支援の取り組みの中から中国における課題解決に有効と考えられるものを選び出して、その応用可能性を検証するために、中国の大学に対するメール調査を実施した結果を分析する。

質問項目は、上記を踏まえ、以下のように設定した。

課題①起業教育に重点が置かれすぎ、実際には多数の学生の進路である「就職」に向けた支援が少ない。

【対応する日本の美術系大学の取り組み】

- ・進路ガイダンス
- ・就職ガイダンス
- ・キャリアガイダンス

【中国の大学への質問項目】

Q1：1年間で何回キャリア教育・就職指導（企業説明会を除く）に関する講座を行なっていますか？

Q2：多摩美術大学に取り組んだ講座と比べて、同じような講座がありますか？ある場合に参加した学生からどのような評価されたか？ない場合は、今後やってみたい講座はどちらですか？

Q3：やってみない講座についてすぐにできそうですか？理由は何ですか？すぐにできない場合は原因を教えてください。

課題②キャリア意識はあるが、キャリアプランの作り方がわからない。

【対応する日本の美術系大学の取り組み】

- ・希望進路別によって、対策ガイダンスを実施（多摩美術大学：留学希望者や教員希望者、進学希望者に情報収集の仕方などを説明する）
- ・3年生全員を対象に希望進路アンケートや個別相談を実施する（九州産業大学：2年次生全員に希望進路調査を実施；3年次生全員に個別相談による希望進路調査を実施）。
- ・キャリアセンターで専任相談職員が配置（京都市立芸術大学：芸術活動支援の専任アドバイザーを配置され、卒業後の制作活動、制作場所・展覧会、イベントを開催するための準備・ポートフォリオ（作品ファイル）の作り方・ギャラリー情報・公募、助成金情報の収集、に関する相談可能）

【中国の大学への質問項目】

Q 1 : 卒業する前に、大学側は学生に希望進路調査を行っていますか？ある場合、調査方法を教えてください。

Q 2 : ない場合、九州産業大学のような3年生全員に希望進路調査を実施することは可能ですか？希望進路調査によって、講座・ガイダンスを開催することについてどう思いますか？

Q 3 : もし、全員に希望進路調査を実施することが難しい場合、それが困難な理由に教えてください。

課題③キャリア教育、就職指導において理論的な内容が多く、実践に活かせない。

【対応する日本の美術系大学の取り組み】

・リクナビやマイナビなど情報産業の職員がゲスト講師として校内のガイダンス・講座を実施する

・1 day インターンシップ（長岡造形大学：デザイン事務所、企業のデザインセクションで就業体験）

・企業採用担当者による就職指導（東京工芸大学：人事担当者目線のポートフォリオ講座；面接対策講座）

・OG・OB 交流会

【中国の大学への質問項目】

Q 1 : キャリア教育・就職指導（企業説明会を除く）に関する講座・ガイダンスの講師について、学内の教職員と学外の専門家のどちらの方が多くですか？

Q 2 : 東京工芸大学のように企業採用担当者をゲストに招いて実施する、ビジネスマナー・面接対策・ポートフォリオの作り方などの講座がありますか？ある場合、参加した学生からどのように評価されましたか？ない場合は、今後、このような講座を実施する可能性はありますか？

Q 3 : 卒業生の進路を十分に把握していますか？卒業生を招いての交流会（OBOG ガイダンス）の実施状況を教えてください。

課題④柔軟な働き方に対してどのような就職指導・キャリア教育を行うかが定まっていない。

【対応する日本の美術系大学の取り組み】

「美大芸大就活ナビ」という美大芸大生に就職活動情報サイトで、就活アドバイス・ポートフォリオ対策・学校別内定者のインタビューなど情報を掲載する。

【中国の大学への質問項目】

Q1：卒業生の進路調査によると、「教育」業に就いている者が多く、「子ども美術教室」「美術予備校」を開く者が少なくない。彼らに対してはどのような講座や支援体制がありますか？（例：個人事業主として美術教室を開く方法、良い場所の選び方、美術教室の見学など）。

## 第2節 メール調査の結果と分析

前節の内容をもとに、表6-1の通りに調査票を作成した。本来はインタビュー調査を実施することが望ましいが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中国で調査を行うことは困難であったため、メール調査によって行うこととした。日本からメール調査への協力依頼を行った結果、八大美術学院のうちに2校、芸術学院（美術学科）が1校、総合大学（芸術学部）からメール調査への協力を得ることができた。調査対象大学の概要は表6-4となる。前節で示した4つの課題別に、日本の3グループの大学におけるキャリア教育・就職支援の取り組みについて、中国の美術系・芸術系大学にとって参考にすべき点がどのようなところにあるか、以下にその回答を紹介していく。

### 課題①起業教育に重点が置かれすぎ、実際には多数の学生の進路である「就職」に向けた支援が少ない。

メール調査によると、1年間に何回のキャリア教育・就職指導（企業説明会を除く）に関する講座を行っているかについては、5回以下と回答した大学が3校（四川美術学院、桂林電子科技大学芸術とデザイン学部、青島大学美術学部）であり、そのうちの、2校（四川美術学院、青島大学美術学部）は1年間に1回のみの実施であった。他の3校（西安美術学院、広西芸術学院美術学科、河南大学芸術学部）では、企画は5～10回程度となっている。多摩美術大学が実施している講座と類似の講座については、「履歴書の書き方」「進学ガイダンス・進学（試験）対策」「校友講演会」「キャリアガイダンス」「就職ガイダンス」等の講座がみられた（表）。参加対象と企画テーマは、大学3年生に向けた「キャリアガイダンス」と大学4年生に向けた「就職ガイダンス」が多かった。例えば、河南大学芸術学部では、「大学3年次で起業に関する選修科目を履修し、講座については大学3年・4年次向けの就職活動に関する企画テーマが多く、大学3年次には4回ぐらいを企画開催し、大学4年次には就職環境分析や就活目標の設定、就活対策（履歴書の書き方・面接対策）を6回ぐらい企画開催している」と回答した。多摩美術大学が実施している講座の中で、今後やってみたい講座については、西安美術学院は「事前準備のコツや、面接官が見ている評価基準、各種面接への対策法など面接対策テーマの講座をやって

みたい」、河南大学芸術学部（総合大学）は「実社会で活躍しておられる本学卒のOBOGガイダンスをやってみたい」と指摘し、二つの大学ではこのような活動企画はすぐにできそうだと回答した。一方、四川美術学院は、「企業説明会を除いてキャリア教育・就職指導に関する活動は新入生時期の1回しかない。大学側には開催する能力があるが、学生たちの意欲が低いため、多摩美術大学と同じような講座は行われなかった」と回答している。

芸術大学の美術学科である広西芸術学院美術学科は、年間8回ぐらいキャリア教育・就職支援（企業説明会を除く）に関する講座を行っている。多摩美術大学と同じように「校友から就職や起業に関する経験を学ぶ交流会を開催すれば人気がある。だが、学校キャリアセンターの人手不足から予定以外の活動をすぐに行うのは難しい」と回答している。

#### 課題②キャリア意識はあるが、キャリアプランの作り方がわからない。

今回は調査し大学では、ほぼすべての大学で在学する学生たちに対して希望進路調査が行われている。桂林電子科技大学芸術・デザイン学部では「大学3年次の就職指導科目で学生の希望進路の調査と指導が予定されている」、河南大学芸術学部では「学部では第1回のキャリア科目で学生全員が希望進路調査票に記入し、定期的に再調査も行い指導している。キャリアセンターで希望進路に応じて指導チームを配置し、個別相談と個別指導を行ったことで、支援効果がよくなっている。キャリア科目の内容を改善するために、大学側は学生にランダム調査も行っている」と回答した。他の大学では、メールアンケート調査やランダム調査、個人相談の時に記入するなどの方式もみられた。八大美術学院の1つである西安美術学院では「調査票の記入やアンケート調査などの方式で学生の希望進路を把握している」、四川美術学院では「個別学生の相談には応じているが、九州産業大学のように3年生全員に希望進路調査を実施するのは難しい。全員に対する希望進路調査は学生のキャリア教育・就職支援に役立つと思うが、低学年の学生たちが自分の将来をどうしたいのか、よくわからないため希望進路を明確にできなさそう」と回答した。

キャリアプランの作り方について多摩美術大学では、会社への就職希望者にガイダンスや講座など実施する他に、留学希望者や教員希望者、進学希望者を対象とした対策ガイダンスも行っている。四川美術大学は多摩美術大学のような希望進路別に就職支援を行うことは、進路を設定した上で、どのように行動すれば良いかが学べるため、効率的な指導方法であり参考にする価値があると回答した

#### 課題③キャリア教育、就職支援において理論的な内容が多く、実践に活かさない。

今回の調査対象校では、外部講師を招いてガイダンス活動を行う回数については、いずれも年間5回以下と回答した。平均すれば1学年あたり年間1～2回ぐらい外部専門家をゲストを招いているが、学内のキャリア教育・就職支援の担当者のほとんどは教職員が担

っている場合多いと見られる。こうした中、河南大学芸術学部では、企業の採用担当者をゲストに招く就活対策講座は、これまでに通算 15 回ぐらい開催されている。さらに、毎年 5～10 名の同学部を卒業した校友との交流会がある。広西芸術学院美術学科では、「今までクリエイティブ系の会社員と芸術教室の経営者をゲストとして招いて 5 回ぐらいガイダンスを行って、大学生から良い評価がもらった」と回答した。

今回のメール調査は、日本大学芸術学部の外部専門家をゲストに招く就職講座の概要（表 6-3）を参考資料として作成し、メール調査票と一緒に中国の調査対象校へ提供した。これに対し、四川美術学院では、機会があれば日本大学のようなゲスト講座を実施してみたいと回答した。

#### 課題④柔軟な働き方に対してどのようなキャリア教育、就職支援を行うかが定まってい ない。

総合大学である河南大学芸術学部では「本学の学生は正社員を志望する者が多いため、柔軟な働き方の希望者に対するサポートは少ない。ただし、美術教室の見学活動はある」と述べた。柔軟な働き方を希望する学生たちにどのような支援活動があるかについて質問したところ、今回の調査対象校はほとんど行っていない。一方、日本の美術系大学の取り組みに対する文献調査によれば、柔軟な働き方に対する支援は少ないため、この課題に対しては、中国で応用可能な取り組みを提示することはできなかった。しかしながら、日本の大学は、学生の職業観の涵養を目的とし、多くの企業・団体と連携してインターンシップに積極的に取り組んで、毎年多くの学生に職業体験という貴重な機会を提供するのは、柔軟な働き方の希望者に対しても選択肢を幅広くするものと考えられる。

### 第 3 節 キャリア教育・就職支援のあり方

前節では、中国へのメール調査の結果を述べた。本節では、中国の美術学院のキャリア教育・就職支援のあり方に対して、日本からの応用可能な取り組みについての提言を試みる。提言に際しては、現時点で素早く実施できることに着目して提言する。

一つ目は、キャリア教育・就職支援の取り組みを、全体計画に基づいて行い、各学年のキャリア教育目標と具体的な支援計画を明確化することである。文献調査とメール調査の対象となった中国の大学では、就職支援に関する年間行事カレンダーがほぼ公開されていない。一般に、日本の大学におけるキャリア教育・就職支援の進め方については、以下の①～③のような流れになっている。

- ① 1 年次「働くとは？」というテーマで働く意味や自分の将来について考える。
- ② 2 年次「職種研究」「業界研究」を学び、「インターンシップへも参加」し、「やりたいこと」「行きたい業界」を思い描く。

③3～4年次「企業研究」「就職対策」を通して、就職先の絞り込みと合格対策を練る。

中国の大学でも、このような全体計画をたて、かつ、年間行事カレンダーを公開することが求められる。

二つ目は、就職支援に関するテーマ講座の企画の中で、日本の大学では定番講座となっている「業界研究」を行うことである。中国の美術学院における業界研究の進め方を、以下の①～③のような流れにしていくことが有効である。

①低学年に美術・芸術の業界動向に加えて、アート領域以外の業界情報を大学生に伝える。

②大学3年次に、希望進路によってファイン系やデザイン系および一般民間企業など業界内での業界全体の成長性、業績推移、各企業の提携関係などをリサーチして、志望業界や志望企業を絞り込む。

③業界研究を通じて、各業界の種類や特徴を知る上に、志望業界で働いている本学卒の先輩（OBOG）を訪問しリアル情報を得る。

このような「業界研究」の流れになることが求められる。

三つ目は、各大学の卒業生（OBOG）の情報管理とその活用である。現在の中国の大学の体制においては、もっぱら専任教職員のみが就職支援に関する活動の企画や実施を担っているため、支援内容と支援効果が制限されている。こうした中、OBOGという外部の大学関係者の協力を活用することができれば、学生に対して実践的なサービスが足りないという現状を改善することができると考えられる。OBOG訪問とOBOGガイダンスは、日本の先行研究で5割ぐらい私立大学はOBOG協力を活用している指摘されている（川崎 2005、p.46）が、今回調査した中国の大学では、各大学の卒業生（OBOG）の情報管理をうまく行っていないものとみられる。したがって、美術学院の学科別にOBOG名簿を作る、あるいは、美術・芸術業界で働く者やフリーランスとして活動中の者、公務員など就職先別によってOBOG名簿を作ることは、就活生だけでなく低学年次の者にもキャリア形成に対して有益な情報提供を行うことにつながると考えられる。

#### 第4節 おわりに

以上より、本論文では日本の美術大学、芸術大学、総合大学芸術学部に対して、キャリア教育と就職支援の取り組みを調査し、中国の美術学院に応用可能なことを検討してきた。日本の6つの大学と中国の8つの大学を対象とした事例研究を行い、日本と中国の美術系大学のキャリア教育・就職支援の実態やキャリア教育・就職支援に対する考え方を捉えることができた。日本の美術系大学におけるキャリア教育と就職支援の特徴を考察した結果、中国の美術学院に、①キャリア教育・就職支援の取り組みを、全体計画に基づいて行い、各学年のキャリア教育目標と具体的な支援計画を明確化すること。②就職支援



に関するテーマ講座の企画の中で、日本の大学では定番講座となっている「業界研究」を行うこと。③各大学の卒業生（OBOG）の情報管理とその活用という3つのキャリア教育・就職支援の改善方策を提言した。

しかしながら、先行研究で課題とされていた「起業教育に重点が置かれすぎ、実際には多数の学生の進路である「就職」に向けた支援が少ない」という現状に対しては、上記のとおり、「業界研究」やOBOG情報の活用等を提言したが、それだけでは十分とは言えないため、今後の研究によって一層深く探求する必要がある。

図表・資料

第 1 章

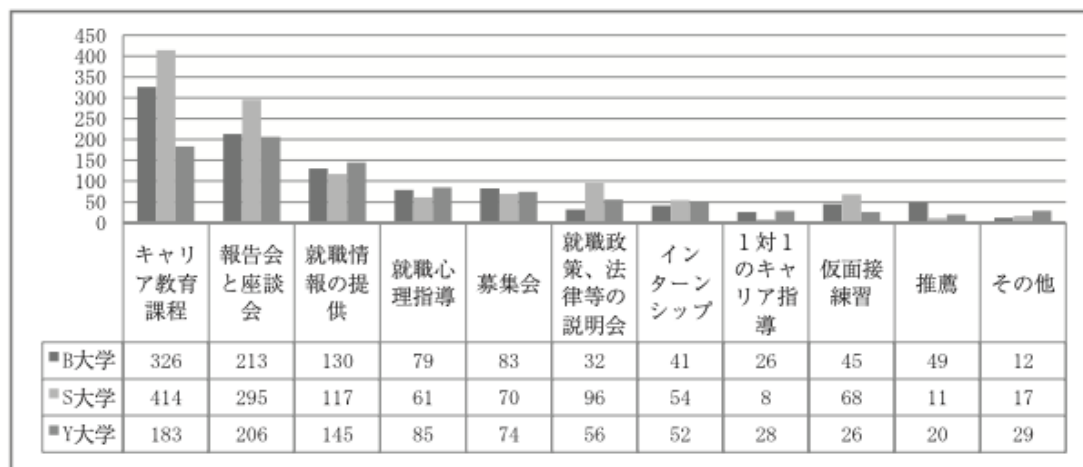
表 1 - 1 中国の単科美術学院の概要

	所在地	学部構成 (芸術系のみ)	学部卒業生数 (2019 卒)	進路決定率 (就職+進学)
中央美术学院	北京市	8 学科	805 人	97.02%
中国美术学院	浙江省杭州市	12 学科	1679 人	90.29%
天津美术学院	天津市	8 学科	1092 人	88.28%
鲁迅美术学院	遼寧省瀋陽市	14 学科	1632 人	90.77%
西安美术学院	陝西省西安市	13 学科	1437 人	80.86%
湖北美术学院	湖北省武汉市	12 学科	1717 人	92.60%
四川美术学院	重慶市	12 学科	1756 人	87.07%
広州美术学院	広東省広州市	8 学科	1310 人	96.03%

出所：各美术学院の卒業生就職質量報告書に基づいて筆者作成。

## 第 2 章

表 2-1 大学生が参加したキャリア教育の内容について（単位：人）



出所：張任（2015）「中国における大学のキャリア教育の展開に関する考察」、p. 60 により。

## 第4章

表4-1 日本の美術系・芸術系大学に対するキャリア教育現状の調査結果

芸術・美術学部 (ファインアート分野あり)	キャリア教育関連の科目実施	うちにキャリア科目実施
東京藝術大学、秋田公立美術大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、沖縄県立芸術大学、武蔵野美術大学、多摩美術大学、横浜美術大学、長岡造形大学、金沢美術工芸大学、東北芸術工科大学、文星芸術大学、東京造形大学、京都芸術大学、成安造形大学、大阪芸術大学、神戸芸術工芸大学、女子美術大学、東京工芸大学。	秋田公立美術大学、横浜美術大学、長岡造形大学、京都芸術大学、女子美術大学、東京工芸大学、武蔵野美術大学。	横浜美術大学、長岡造形大学。
筑波大学、富山大学、九州大学、名古屋市立大学、尾道市立大学、広島市立大学、九州産業大学、札幌大谷大学、星槎道都大学、東北生活文化大学、尚美学園大学、日本大学、桜美林大学、文化学園大学、大阪成蹊大学、大手前大学、常葉大学、崇城大学。	筑波大学、九州大学、九州産業大学、札幌大谷大学、桜美林大学、常葉大学。	九州大学。

出所：筆者作成（2020年7月実施）

表 4-2 美術・芸術系大学の支援体制（1）

学校（施設名）	キャリア教育	就職支援
秋田公立美術大学 (キャリアセンター)	低学年次からキャリア教育科目を配当する。	教職・公務員志望者に、試験対策講座の実施と採用情報のタイムリーな提供を行う
	外部講師による講話や、エントリーシート、面接、企業研究等の指導を行う外部講師による講話や、エントリーシート、面接、企業研究等の指導を行う	作家・企業志望者に、本学教員や外部の起業者からのノウハウを学ぶガイダンス等を行う 進学・留学希望者に、本学教員や国際交流センター等を通じた情報の提供及び指導を行う
横浜美術大学 (キャリア支援室)	年次別に選択必修のキャリアデザイン科目を設置する。	新入生キャリアスタートブツプログラム
	「キャリアデザイン1」（選択必修1・2年次：2単位） アーティスト、本学卒業生、企業などでゲスト講師による授業。	ポートフォリオ制作講座
	「キャリアデザイン2」（選択必修1・2年次：2単位） 生き方づくり。	各種ガイダンス・学内説明会・企業説明会
	「キャリアデザイン3」（選択必修2・3年次：1単位） キャリアプランを具体的に設定する。	3年次個人面談
	「キャリアデザイン3」（インターンシップ） （選択必修2・3年次：1単位）	面接実践講座
「キャリアデザイン4」（選択必修3・4年次：1単位） 就職活動の準備を具体的に行う（文章表現力、筆記試験、面接、グループディスカッション対策、ポートフォリオプレゼンテーション実践、内定者報告会など）。	資格取得支援 卒業生カメラマンによる証明写真撮影会	

表 4-2 美術・芸術系大学の支援体制（2）

学校 (施設名)	キャリア教育	就職支援
長岡造形大学 (キャリアデザインセンター)	1年次から必修科目としてキャリア教育関連科目を実施する	就職対策ガイダンス
		業界研究セミナー・学内企業説明会
		インターンシッププログラム（デザイン事務所、企業のデザインセクションで就業体験）
		選考試験対策
		情報提供（企業情報、求人情報など）
		個別面談（3年生全員に個別面談）
		進路相談、就職内定報告書・ポートフォリオの公開、卒業生情報の提供など
京都芸術大学 (キャリアデザインセンター)	「キャリア授業」 1・2年次：「キャリア国語」「数学基礎」 「キャリア研究基礎」 3年次：「就職対策特講」	社会実装プロジェクト説明会
		業界セミナー、ポートフォリオ講座、マネー・メイク講座、エントリーシート対策、面接実践講座、ほか課外講座
		インターンシップガイダンス
		学内合同企業説明会
		キャリア相談・個別指導
女子美術大学 (キャリア支援センター)	全学科専攻の学生が履修できる授業科目「キャリア形成」を開講する。 「キャリア形成 A」ポートフォリオ基礎、ビジネス文書、キャリアデザイン、グループワーク 「キャリア形成 B」未来履歴書、SPI、自己理解、業界研究 「キャリア形成 C」エントリーシート、面接とグループディスカッション、文章による自己PR、業界と企業研究 「キャリア形成 D」就職活動用プレポートフォリオ、就職試験対策、インターンシップ	資格取得講座
		学内企業説明会・業界研究会
		卒業生による就職アドバイス会
		履歴書（エントリーシート）・グループディスカッション・面接・SPI試験対策講座
		ポートフォリオ講座
		個別面談

表 4-2 美術・芸術系大学の支援体制（3）

学校（施設名）	キャリア教育	就職支援
<p>東京工芸大学 (就職支援課)</p>	<p>キャリアデザイン（芸術学部） キャリアデザイン1（1年次）：自分の将来を考える キャリアデザイン2（2年次）：自分の将来を考える キャリアデザイン3（3年次）：就活実践講座</p>	<p>3年次就職支援（一部抜粋） 適職診断、インターシップ勉強会、就活サイト一括登録会、IT業界研究セミナー、ビジネスマナー講座、自己分析ワークショップ、就職試験SPI模試、ポートフォリオ（作品集）作成トレーニング、就職ガイダンス、人事担当者目線のポートフォリオ講座、クリエイティブ業界研究セミナー、スーツ着こなし講座、ポートフォリオ（作品集）ブラッシュアップ講座、大手広告代理店デザイナー職作品相談会、自己PR書き方講座、履歴書の書き方講座、企業採用担当者による面接対策講座（グループディスカッション）（集団面接）、就職力アップ講座、フリーランスのためのお金セミナー</p>
		<p>4年次就職支援（一部抜粋） 就活ワークショップ（自己分析・ES作成・面接対策）、大学院進学セミナー、就職力アップ講座</p>
		<p>企業説明会、求人情報、個別指導など</p>
<p>武蔵野美術大学 (キャリアセンター)</p>	<p>(聞き取り調査) 「キャリア設計基礎」 「インターンシップ演習Ⅰ・Ⅱ」</p>	<p>進路・就職講座（全学年）</p>
		<p>進路・就職ガイダンス（学部3年・院1年）</p>
		<p>ポートフォリオ作成支援プログラム（学部3年・院1年）</p>
		<p>業界・職種研究会（学部3年・院1年）</p>
		<p>就職対策講座（学部3年・院1年）</p>
		<p>学内会社説明会（学部3年・院1年） インターンシップ</p>

表 4-2 美術・芸術系大学の支援体制（4）

学校（施設名）	キャリア教育	就職支援
九州産業大学 （全学科）	授業科目「キャリア形成基礎論」 （1年次）：結果として就職が決まる学生生活について説明 授業科目「キャリア開発論」（2年次）：各業界の第一線で活躍する方々によるオムニバス講義 授業科目「キャリア形成戦略」（3年次）：就職活動のプロセス、その時々によすべきことについて説明	キャリアサポートセミナー（1年次） キャリアサポートセミナー公務員研究（1～3年次）
		就職ガイダンス/留学生ガイダンス（3年次）
		就職活動集中対策セミナー（3年次） 企業による本番を想定した面接の模擬体験；丸一日をかけて、自己PR方法や企業の人事担当者による面接体験
		OB・OGから学ぶ業界セミナー&就職相談会（3年次）：本学OB・OGから業界や企業研究の方法、現在の仕事内容、就職活動などの方法について座談会形式で学ぶ
		個別面談、模擬面接など（4年次）
九州産業大学 （芸術学部）	授業科目「QUEST演習A」（1年次）：具体化し計画・実践 授業科目「QUEST演習B」（2年次）：課題発見 授業科目「QUEST演習C」（3年次）：芸術的な総合力で課題の解決策	/

出所：各大学のホームページで公開されている情報に基づいて筆者作成。



## 第 5 章

表 5-1 中国と日本の美術大学におけるキャリアセンターの教職員一人当たりの学生割

学校	中国		日本	
	中国美術学院	魯迅美術学院	多摩美術大学	武蔵野美術大学
学生数 (学部)	5,933 <sup>2</sup>	6,659 <sup>3</sup>	4,451	4,308
スタッフ数	25	10	7	10
教職員一人当たり の学生比率	1:237	1:659	1:635	1:430

出所：各大学のホームページで公開されている学生数データとメール調査結果に基づいて筆者作成。

表 5-2 中央美術学院大学生創新創業計画の概要

<p>「資金支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査合格者に1万人民元（15万8千円相当）を支給する；</li> <li>・3ヶ月後に審査が合格したら3万人民元（47万4千円相当）を支給する；</li> <li>・6ヶ月以降1～5万人民元（15万8千円～79万1千円相当）を支給する、という「1+3+X」ような起業補助金を支給する。</li> </ul> <p>「経営指導」</p> <p>起業計画を磨きながら実践を繰り返すことで、セミナーや相談など含む起業塾を行う。</p> <p>「ベンチャー起業の広報活動」</p> <p>大学はマスメディアを連携させ、ベンチャー起業の広報・宣伝活動を協力する。</p> <p>「その他」</p> <p>指導先生（2名）に1ヶ月2000人民元（3万1千円相当）の指導手当を支給する。</p>
--

出所：中央美術学院で公開された情報に基づいて筆者作成。

<sup>2</sup> 中国美術学院（2019）『中国美術学院 2018-2019 学年本科教学质量報告』

<https://www.caa.edu.cn/xxgk/zxxxgk/202010/39760.html>.

<sup>3</sup> 魯迅美術学院（2019）『魯迅美術学院 2018-2019 学年本科教学质量報告』

<http://www.lumei.edu.cn/system/resource/storage/download.jsp?mark=N0YzQzJDNzc3MUI4QzhENTk2RUNCNEZE MEJDQzQONTAvQjI4QUVCRjUvMTICREU2>.

表 5-3 中国美術学院のスキルアップ研修の概要

第 18 回目「スキルアップ研修<sup>4</sup>」

<実施概要>

- ・開催日時：2020 年 10 月 31 日～11 月 02 日
- ・募集人数：定員なし（申込者：113 人）
- ・研修内容：
  - ①「ニューメディア×コンテンツ----企画」
  - ②「メディアにおいてオリジナルの動画作成・流通情報量」
  - ③「ニューメディア×ライブ配信----ニュース報道のやり方の変化」
  - ④「ミニ動画（短視頻）の企画×美大＝無限の可能性」
  - ⑤「プラットフォームでコンテンツ作り方」

第 20 回「スキルアップ研修“美美講堂”--美術教育教員養成研修<sup>5</sup>」

<実施概要>

本研修は美術教育教員を志望する大学生を対象として、美術教師のミッションや教育現場での実践力、児童・生徒とのコミュニケーションなど新人教員の問題解決力を培う。研究内容は理論学習、グループディスカッション、教育実習の 3 つ段階を分けられる。修了証明書を取得したら美美講堂の助教にする資格があり、今後講師に担当することもできる。

- ・開催日時：2020 年 10 月 24 日～11 月 10 日
- ・募集人数：定員なし（申込者：98 人）
- ・「理論学習」2020 年 10 月 24 日～26 日
- ・「グループディスカッション（教案作り）」2020 年 10 月下旬
- ・「教育実習」2020 年 10 月下旬

出所：中央美術学院で公開された情報に基づいて筆者作成。

<sup>4</sup> 中国美術学院学生处（WeChat 公式公式アカウント）：「第十八期发展性成长训练营」（2020 年 10 月 19 日発表）、2020 年 12 月 16 日閲覧。

<sup>5</sup> 中国美術学院学生处（WeChat 公式公式アカウント）：「第二十期发展性成长训练营之：“美美讲堂”金牌讲师训练营」（2020 年 10 月 14 日発表）、2020 年 12 月 16 日閲覧。

表 6-1 中国の大学へのメール調査項目

	中国の先行研究で指摘されている課題	左記に対応する日本の美術系大学の取り組み	中国の大学への質問項目
1	起業教育に重点が置かれすぎ、実際には多数の学生の進路である「就職」に向けた支援が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス</li> <li>・就職ガイダンス</li> <li>・キャリアガイダンス</li> </ul> (具体的プログラムは資料の表 6-2 にご覧してください)	<p>Q 1 : 1 年間で何回キャリア教育・就職指導(企業説明会を除く)に関する講座を行なっていますか?</p> <p>Q 2 : 多摩美術大学に取り組んだ講座と比べて、同じような講座がありますか?ある場合に参加した学生からどのような評価されたか?ない場合は、今後やってみたい講座はどちらですか?</p> <p>Q 3 : やって見ない講座についてすぐにできそうですか?理由は何ですか?すぐにできない場合は原因を教えてください。</p>
2	キャリア意識はあるが、キャリアプランの作り方がわからない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望進路別によって、対策ガイダンスを実施(多摩美術大学:留学希望者や教員希望者、進学希望者に情報収集の仕方などを説明する)</li> <li>・3年生全員を対象に希望進路アンケートや個別相談を実施する(九州産業大学:2年次生全員に希望進路調査を実施;3年次生全員に個別相談による希望進路調査を実施)。</li> <li>・キャリアセンターで専任相談職員が配置(京都市立芸術大学:芸術活動支援の専任アドバイザーを配置され、卒業後の制作活動,制作場所・展覧会,イベントを開催するための準備・ポートフォリオ(作品ファイル)の作り方・ギャラリー情報・公募,助成金情報の収集、に関する相談可能)</li> </ul>	<p>Q 1 : 卒業する前に、大学側は学生に希望進路調査を行っていますか?ある場合、調査方法を教えてください。</p> <p>Q 2 : ない場合、九州産業大学のような3年生全員に希望進路調査を実施することは可能ですか?希望進路調査によって、講座・ガイダンスを開催することについてどう思いますか?</p> <p>Q 3 : もし、全員に希望進路調査を実施することが難しい場合、それが困難な理由に教えてください。</p>

3	<p>キャリア教育、就職指導における理論的な内容が多くて、実践に活かせない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リクナビやマイナビなど情報産業の職員がゲスト講師として校内のガイダンス・講座を実施する（具体的プログラムは表6-3にご覧してください）</li> <li>・1 day インターンシップ（長岡造形大学：デザイン事務所、企業のデザインセクションで就業体験）</li> <li>・企業採用担当者による就職指導（東京工芸大学：人事担当者目線のポートフォリオ講座；面接対策講座）</li> <li>・OG・OB 交流会</li> </ul>	<p>Q1：キャリア教育・就職指導（企業説明会を除く）に関する講座・ガイダンスの講師について、学内の教職員と学外の専門家のどちらの方が多くですか？</p> <p>Q2：東京工芸大学のように企業採用担当者をゲストに招いて実施する、ビジネスマナー・面接対策・ポートフォリオの作り方などの講座がありますか？ある場合、参加した学生からどのように評価されましたか？ない場合は、今後、このような講座を実施する可能性はありますか？</p> <p>Q3：卒業生の進路を十分に把握していますか？卒業生を招いての交流会（OBOG ガイダンス）の実施状況を教えてください。</p>
4	<p>柔軟な働き方にどのような就職指導・キャリア教育を行うかが定まっていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本でもあまり取り組めていないが、「美大芸大就活ナビ」という美大芸大生に就職活動情報サイトで、就活アドバイス・ポートフォリオ対策・学校別内定者のインタビューなど情報を掲載する。</li> </ul>	<p>Q1：卒業生の進路調査によると、「教育」業に就いている者が多く、「子ども美術教室」「美術予備校」を開く者が少なくない。彼らに対してはどのような講座や支援体制がありますか？（例：個人事業主として美術教室を開く方法、良い場所の選び方、美術教室の見学など）。</p>

出所：筆者作成.

表 6-2 多摩美術大学のガイダンス概要

	進路ガイダンス	就職ガイダンス	キャリアガイダンス
1・2年次	卒業生の進路状況を通じて、自分自身の進路を考える。	就職活動の時期や流れ、特徴などを説明し、今後やるべきことを考える。	将来のビジョンを考えながら、今後の学生生活に考えていく。現在社会で活躍しているOBを招き、自身の学生時代や現在の仕事などを講演してもらう。
3年次	昨年度の進路状況と今後のガイダンス等を説明し、様々な進路に対しての考え方や実現する為に今後やるべきことなどを説明し、キャリアセンターのサポート内容や今後のスケジュール、実際の就職活動の流れや進め方などを詳しく説明する	社会にはどのような仕事があるのかを具体的に業界や企業名、職種などの特徴を踏まえて説明する。	留学希望者や教員希望者、進学希望者に情報収集の仕方などを説明する。
			自己分析講座
			マナー講座
			業界・職種・企業研究講座
			内定者報告会
			面接対策講座
4年次	昨年度の進路状況と本年度の傾向を説明する。現段階での進路に対して調査を実施する	進路ガイダンスでアンケートをとり、再度聞きたい内容などを再度説明する	進学希望者に本年度の各大学院の試験日程やカリキュラムなどをより具体的に説明する

出所：多摩美術大学により、<https://www.tamabi.ac.jp/career/recruit/guidance.htm>

表 6-3 日本大学芸術学部の就職指導講座（外部講師）

講座名	内容	講師
就職活動入門講座 I (就職活動の準備の進め方)	最新の就職状況を踏まえて、今後の活動準備の進め方を具体的に説明する	イマジカデジタルスケープ (Web・ゲーム・映像業界の求人サイト)
ポートフォリオの作り方講座	クリエイティブ系職種希望者必須のポートフォリオ（作品集）の作成方法等を解説する	
キャリアガイダンス (低学年向けガイダンス・1年次)	業界研究「放送、写真、音楽業界、公務員」「映画、映像（制作進行、映像編集、音響効果）業界」「広告、グラフィックデザイン、出版（編集、書籍デザイン）、印刷、WEB業界」「製品/商品デザイン（文具・玩具、キャラクターデザイン含む）、空間デザイン、舞台/TV美術制作業界」「ゲーム、アニメ、CG、映像（視覚効果、合成）業界（サウンド・アフレコ系含む）」	
就職活動入門講座 II (日芸周辺以外の業界の紹介)	芸術学部周辺以外の多種多様な業界を幅広く簡潔に紹介。併せてそれらの業界の研究方法等も解説する	マイナビ
面接基礎講座	面接を受ける際の必要な知識を学び、レベルアップするための土台を築く	実務教育出版
公務員	芸術学部生にも縁の深い職種を中心に多様な公務員の世界を紹介する他、試験内容や勉強方法も解説する	

出所：日本大学芸術学部により、<http://www.art.nihon-u.ac.jp/career>

表 6-4 メール調査された大学概要

大学種類別	大学名と学科概要	
美術学院 (=美術大学)	四川美术学院	西安美术学院
芸術学院 (=芸術大学)	広西芸術学院美術学科 中国には、6所国立芸術大学の中で一つとして、美術学科は油絵、版画、水彩画、総合絵画、美術史論がある。	
総合大学	河南大学芸術学部 河南省開封にある。音楽とダンス学科、戯劇（演劇）学科、美術学科、デザイン学科、芸術学理論学科がある。	
	桂林電子科技大学芸術とデザイン学部 広西チワン族自治区桂林市にある。インダストリアルデザイン学科、ビジュアルデザイン学科、環境デザイン学科、アニメ学科、パブリックアートデザイン学科、衣装デザイン学科がある。	
	青島大学美術学部 山東省青島にある。絵画学科とデザイン学科がある。	

出所：筆者作成。

## 参考文献

### 日本語

#### (1) 書籍・雑誌・論文等

- ・那須 幸雄 (2004) 「わが国大学におけるキャリア教育の現状と動向 -中部、関西、九州の代表的9大学に見る事例研究-」 文教大学国際学部紀要 第15巻1号、pp.81-95.
- ・川崎 友嗣 (2005) 「変わる私立大学「就職支援」から「キャリア形成支援」へ」 『IDE・現代の高等教育』 民主教育協会 No.467、pp.45-49.
- ・中里弘穂 (2011) 「大学におけるキャリア教育実践の現状と今後の展望」 『経済教育』 2011年30巻、pp.178-187.
- ・望月由起 (2012) 「大学における就職支援担当者の現状 -「大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査」を通して -」 『お茶の水女子大学 高等教育と学生支援』 第3号、pp.1-10.
- ・喜始照宣 (2014) 「芸術系大学出身者と労働」 『日本労働研究雑誌』 No.645/April、pp.50-53.
- ・喜始照宣 (2015) 「美術系大学からの卒業後進路選択 作家志望に着目して」 『高等教育研究』 第18集、pp.191-192.
- ・張任 (2015) 「中国における大学のキャリア教育の展開に関する考察 素質教育の補助と延長という視点から」 山口大学大学院東アジア研究科、学術雑誌『東アジア研究』 第13号、pp.45-73.
- ・森田佐知子 (2015) 「産業界ニーズから見た芸術系学部におけるキャリア教育の在り方」 『佐賀大学全学教育機構紀要』 第3号、pp.125-136.
- ・森田佐知子 (2016) 「芸術系学部の学生に対する有効な就職支援について -美術工芸に対する意識の変化に着目した探索的研究 -」 佐賀大学全学教育機構紀要、第4号、pp.153-163.
- ・大森 真穂 (2017) 「大学教育における就職支援の教育的課題とアプローチ」 立教大学教職課程、教職研究、第29号、2017年4月、pp.49-60.

#### (2) 行政資料・報告書

- ・1991年度大卒就職研究会 (1992) 「大学就職指導と大卒者の初期キャリア」 調査研究報告書 No.33、日本労働研究機構.
- ・若者自立・挑戦戦略会議 (2003) 「若者自立・挑戦プラン」 文部科学省.  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/minutes/2003/0612/item3-2.pdf>.
- ・中央教育審議会 (2009) 「大学における社会的・職業的自立に関する指導等 (キャリアガイダンス) の実施について (審議経過概要)」 文部科学省.  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1288248.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1288248.htm).
- ・労働政策研究・研修機構 (2014) 「大学・短期大学・高等専門学校・専門学校におけるキャリアガイダンスと就職支援の方法 -就職課・キャリアセンターに対する調査結果-」 独立行政法人 労働政策研究・研修機構、調査シリーズ No.116、2014年3月、pp.1-169.

#### (3) Web サイト (いずれも 2021年01月22日最終閲覧)

- ・武蔵野美術大学 (進路・就職) <https://www.musabi.ac.jp/career/>
- ・多摩美術大学 (キャリア支援・就職) <https://www.tamabi.ac.jp/career/>
- ・横浜美術大学 (就職・キャリア支援) <https://www.yokohama-art.ac.jp/career/>
- ・京都市立芸術大学 (キャリアデザインセンター) <https://www.kcuu.ac.jp/course/>



- ・ 日本大学芸術学部（進路・就職） <http://www.art.nihon-u.ac.jp/career/>
- ・ 九州産業大学芸術学部（就職・キャリア教育） <http://www.kyusan-u.ac.jp/kyugei/2017/support/education.html>

## 中国語

### （１）書籍・雑誌・論文等

- ・ 劉献文・李少芬（2007）「大学生职业生涯规划教育本土化研究（大学職業生涯教育における現地化の研究）」遼寧教育研究 大学生就職研究、2007年第5期 pp.93-96.
- ・ 娜琳（2007）「日本高校就业指导及给我国的启示（日本の大学就職指導およびわが国に啓示）」内モンゴル師範大学学报（教育科学版）第20卷第3期、pp.45-48.
- ・ 楊凡（2007）「论日本大学的生涯教育对高等教育的影响（日本の大学生涯教育が高等教育の影響）」河南大学学报（社会科学版）第47卷第5期、pp.142-145.
- ・ 唐尧（2008）「我国高校学生职业指导队伍建设的研宄（わが国大学における学生就職指導団体に取組みの研宄）」修士論文、天津大学.
- ・ 谷晶（2009）「中日大学生就业指导模式比较研究（中日両国の大学生における就職指導の比較研究）」修士論文、福建師範大学.
- ・ 丁聰（2009）「大学生の生涯教育に関する実践研究（大学生職業生涯规划的実践研究）」修士論文、山東大学.
- ・ 王利軍（2009）「美術类大学生职业生涯规划研究 以天津美术学院为例（美術系大学生の職業生涯教育に関する研究 天津美術学院を例として）」修士論文、南開大学.
- ・ 趙峰（2010年）『高校就業指導工作体系研究』中国市場出版社.
- ・ 温清浩（2010）「艺术类本科院校学生职业生涯规划研究-以广州美术学院、星海音乐学院为例（芸術系学生におけるキャリアプラン（職業生涯設計）の研究：広州美術学院と星海音楽学院を例として）」修士論文、中山大学.
- ・ 朱娜（2012）「美术学院大学生就业中存在的问题及教育引导对策研究 以四川美术学院为例（美術系大学の大学生における就活の現状（問題点）と指導対策に関する研究 四川美術学院を例として）」修士論文、西南大学.
- ・ 孔夏萌（2013）「高校职业生涯教育课程研究（大学における職業生涯教育の研究）」博士論文、西南大学.
- ・ 鄭智貞，班惠英，王興文（2013）「大学生职业发展与就业指导课程教学现状研究 以山西省10所高校为样本的调查（大学生の職業発展と就職指導科目について現状研究 山西省の10所大学を例として）」『教学研究』、第36卷第6期 2013年11月、pp.71-74.
- ・ 孫曉慧（2014）「大学生职业生涯规划问题研究综述（大学生の職業生涯教育に関する研究レビュー論文）」吉林工商学院学报、第30号第3期、pp.111-114.
- ・ 叶扶荣（2014）「美术类大学生就业指导课程教学改革的实践与思考（美術系大学生における就業指導カリキュラムの改革：実践と思考）」『中国大学生就業』2014年第4期、pp.48-51.
- ・ 韓柳研（2014）「高校职业生涯规划课程的现状与优化 以河南大学为例（大学の職業生涯教育カリキュラムにおける現状と最適化-河南大学を例として）」修士論文、河南大学.

・何方（2016）「高校職業生涯教育課程実施効果研究-以 JT 大学《職業生涯發展與規劃》課程為例（大学の職業生涯教育カリキュラムにおける授業効果の研究-JT 大学のキャリア教育の例として）」修士論文、上海師範大学。

・徐丹丹（2017）「关于美术学院校学生就业力提升的研究（美術系学生の就業力を高めるに関する研究）」湖北美术学院学报、2017 年第 1 期、pp. 62-67.

・劉榮（2017）「当代中国美术学院校的创新创业教育模式探索（中国の美术学院における創新創業の教育モデルに関する研究）」博士論文、西安美术学院。

・王伯庆・陳永紅編（2019）『就业蓝皮书 2019 年中国本科生就业报告（就職青書 2019 年度中国本科生の就職報告）』麦可思研究院、社会科学文献出版社。

（2）行政資料・報告書

中央美术学院（2019 年）『卒業生就職質量報告書』p. 16、p. 18.

中国美术学院（2017 年）『卒業生就職質量報告書』p. 18.

中国美术学院（2019 年）『卒業生就職質量報告書』p. 8、p. 18、p. 19.

魯迅美术学院（2019 年）『卒業生就職質量報告書』p. 19、p. 20-21、p. 23.

西安美术学院（2019 年）『卒業生就職質量報告書』p. 38、p. 105.

（3）Web サイト（いずれも 2021 年 01 月 22 日最終閲覧）

中央美术学院（就業信息网）<http://cafa.jysd.com>

中国美术学院（卒業生就業指導サービスセンター）<http://www.caajiuye.com>

天津美术学院（就業信息网）<http://tmjy.tjarts.edu.cn>

西安美术学院（就業信息网）<http://jyzx.xafa.edu.cn/website/index.aspx>

四川美术学院（創業就業網）<https://www.scfai.edu.cn/jy/>

湖北美术学院（就業信息网）<https://hifa.91wllm.com>